

予算決算審査委員会報告書

令和元年10月15日

備前市議会議長 立川 茂 殿

委員長 橋本 逸夫

令和元年10月15日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第97号 平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について中、教育部関係の審査	—	—

予算決算審査委員会記録

招 集 日 時	令和元年10月15日（火）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午後3時56分	閉会
場 所・形 態	委員会室A B	閉会中の開催		
出 席 委 員	委員長	橋本逸夫	副委員長	田口豊作
	委員	尾川直行		掛谷　繁
		守井秀龍		中西裕康
		青山孝樹		藪内　靖
		西上徳一		石原和人
		森本洋子		星野和也
欠 席 委 員		土器　豊	川崎輝通	
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	立川　茂		
説 明 員	教育部長	田原義大	教育振興課長	大岩伸喜
	学校教育課長	朝倉　健	幼児教育課長	波多野靖成
	文化振興課長	横山裕昭	社会教育課長	竹林幸作
傍 聴 者	報道関係	なし	一般傍聴	なし
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○橋本委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は12名です。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会します。

審議に先立ち、さきの台風19号が日本列島に上陸をいたしまして、甚大な犠牲を生じております。被災された皆さんあるいは亡くなられた皆様方に対して心よりお見舞いを申し上げます。

それでは、早速審査に移りたいと思いますが、本日は議案第97号平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について、教育部関係の審査を行います。

該当ページを都度指定しながら審査を進めます。

まず、歳入から行います。

決算書は22ページから、所管別分類表は3ページをおあげください。

決算書の22ページから23ページの間で質疑を希望される方ございませんか。

○守井委員 23ページの負担金の保育園費負担金で、公立保育園保育料となっておりますが、この内容を報告いただけますでしょうか。29年度決算より200万円ぐらいふえている状況なんです。

○波多野幼児教育課長 おっしゃるように前年比で200万円ほどふえております。園児数はほぼ横ばいですが、園児の中身におきまして、3歳から5歳は減少ぎみでございますが、ゼロ歳から2歳までがふえております。3歳から5歳まではほぼ6,500円の保育料ですが、ゼロ歳から2歳までは9,500円になります。中身の低年齢児の増加により、保育料がふえております。

○守井委員 30年度から無償化しているという認識だったんですが、それは3歳児以上だけの話なんですかね。

○波多野幼児教育課長 無償化は段階的に27年度から始まりまして、ゼロ歳になったのが29年度であります。3歳児以上は、国のほうが無償化したこの10月からの措置でありまして、保育料といたしましては実費負担分、給食費、それから教材費ということで、ゼロから2歳まではほぼ9,500円、3歳以上は6,500円徴収しているのが現状でございます。

○守井委員 わかりにくかったんですけど、保育料といえば保育の使用料みたいな感じに見えるんですけど、保育料という表現のほうが違うんじゃないかというような感じがするんですけど、どんなですか。例えば食費代とか教材費とかという、そういうほうが正確な集め方じゃないかと思うんですけど、それはどんなんですか。

○波多野幼児教育課長 私どもの無償化になってからの保育料という名称でございますが、国のほうが実費負担分及び給食費のほうを保育料として徴収してよいという国の決まりのもとに徴収してまいりましたが、この10月からは3歳から5歳のみ副食費を保育料から切り離して集めなさいということになっております。30年度は全て保育料として徴収可能ということでその名称

を使っております。

○掛谷委員 関連なんですけども、この広域入所市町村負担金というのはどういう意味合いなのか、説明をお願いします。

○波多野幼児教育課長 広域入所でございますけども、市外から市内のほうに出産によります里帰り出産で子供を預ける、あるいはもともと市内の方がこちらのほうの事業所に通うということで子供を預けることが受け入れ可能なら可能となる制度でございます。市外の方がこちらに入ってきた場合、その市外の方の保育料、正規の保育料をうちは徴収して、残り必要な分は国、県から私どものほうに補助が入ります。逆に、私どものほうからほかの市に行った場合は、私どもの保育料をその市で払っていただいて、残り必要な分はその市が国、県から補助をいただくような制度でございます。

○掛谷委員 延べ人数というのは、今言う3歳、5歳、ゼロ歳、2歳があるんですけど、何名というところはわかりますでしょうか。

○波多野幼児教育課長 まず、受け入れのほうですけども、全部で6人であります。岡山市が4人、赤穂市が1人、和気町が1人です。年齢別でございますけども、ゼロ歳から2歳までが4人、それから3歳から5歳までが2人の計6人でございます。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次に移りたいと思います。

次の範囲が、22ページから29ページで、使用料及び手数料のうちの文教関係ということで範囲を指定します。

この間で質疑を希望される方。

○守井委員 27ページ、教育使用料。社会教育使用料、美術館使用料、これは備前焼ミュージアムのことだろうと思うんですけども、若干昨年に比べて減っているような状況なんですけども、これは29年度か28年度から市のほうへ移管したと思うんですけども、利用状況とか、その経過の状況はいかがか、報告いただきたいと思います。

○横山文化振興課長 美術館使用料ということで、入館状況を御報告したいと思います。

まず、30年度につきましては、8,892名ということでございます。開館日数は、281日。さかのぼりまして29年度は1万1,060人、開館日数が300日、28年度につきましては9,276名で、開館日数が297日ということでございます。

○守井委員 それで、昨年に比べて大分売上金が少なくなっているようなんですけども、今報告ありましたけど、1万1,000から8,800というような形で減っておるというような形なんですけども、日数が20日ぐらい短いからかと思うんですけども、その辺はいかがなんでしょうか。

○横山文化振興課長 開館日数が若干少ないというのもあるんですけども、岡山県が見舞われた西日

本豪雨の影響が多分にあったのかなあとというふうに推測されます。

○守井委員 今年度の状況はいかがなんでしょうかね。

○横山文化振興課長 今、正確な数字は持っておりませんが、今年度は企画展、特別展の状況もよろしくて、去年よりはふえているように聞いております。

○守井委員 結構宣伝もしていただいたり、こうしてお金もかかっているんじゃないかと思うんですが、昨年に比べて利用がふえておるという認識で、美術館としての機能も十分果たしてきたという感覚で捉えとってよろしいでしょうか。

○横山文化振興課長 担当の学芸員、それから文化振興課の職員一体となって展示の充実に努めているところでございます。

○尾川委員 25ページの教育使用料で、小学校学校施設使用料が減額してきとるというふうなことが現状のようなんです。使用料が変わってきとると、下がってきとるとするのはどういうふうに分析されとんのですか。

○竹林社会教育課長 小学校、中学校の使用料ですけども、こちらにつきましては学校開放施設ということで、各種団体さんに御利用いただいているというところでございますけども、小学校につきましては10校分、中学校については5校分ということで、スポーツ団体さん等の活動回数、こういったところで若干減少、小学校分については減少しているという状況でございます。

○尾川委員 ありがとうございます。それで、こっちが一番聞きたいのは、その使用料は減ったほうがええんか、ふえたほうがええんかというのは、それはいろんな見方があると思うんです。体育の振興という面で使うてもろたほうがええんかもしれん、地域のスポーツの振興にね。だけど、こういう中学校は上がると思うんですけど、そういう分析はされてないんですかね。どういふふうな感じにとられとんかなあと思うて。

○竹林社会教育課長 小学校につきましては、団体数としてトータル71団体ということで、ニーズに合った形でそれぞれの施設、地区の方のスポーツ団体さんに御利用いただいている現状かなと思っております。

○尾川委員 要するに、言いたいのはもう高齢化でそういう人が少のうなってきたんか、それともこういう学校みたいな施設では限界が来とんか、そういう分析というのはされてないんかなというふうな感じがあつて。それから、クラブみたいなもんとか、健康教室みたいなほうがええんか、単なるそういう体育館貸す、グラウンド貸すという、武道場を貸すというだけじゃなしにどうなんかなあと。すぐ返事ができんと思うんで、そういう視点、切り口で見てもらって、備前市の体育振興というか、どういふふうにしていこうとんとんかということも学校施設含めて一つのデータ、人は減ってきとると使用料減るといふのはようわかっただけですけど、そのあたりどういふ、住民、市民がどういふふうなことを希望しとんか、あるいはその辺あたりを調査してもらえたらなというふうな感じなんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長 現状もいろいろ団体さんにもお聞きしながら、その辺の動向を見ていき

いと思います。

○**青山委員** 先ほどのに関連してなんですけど、中学校の体育施設の利用なんですけど、ナイターで利用できるのは何校だったですかね。

○**竹林社会教育課長** 運動場ということでよろしいですかね。

スポーツ施設として管理してますのは日生中学校のみだったと思います、中学校でいいですよ。小学校でいうと、あと2校あります。

○**守井委員** 同じく27ページ、高等学校使用料の授業料が大分減額になっているんですけど、補助金が出たのか、それとも人数が減ったのか、その辺はいかがですかね。

○**大岩教育振興課長** 生徒数の減でございます。41名から31名になっております。

○**中西委員** 27ページの教育使用料、小学校使用料のところでは行政財産使用料というのが3万9,500円ありますけども、この行政財産というのは何でしょうか。

○**大岩教育振興課長** 吉永小学校の太陽光の屋根貸し利用料が3万4,560円、あと学校運動場の使用料ということで5件、1件当たり1,000円のが5件ということで、3万9,560円でございます。

○**中西委員** 細かいことを聞いて申しわけないんですけども、去年との差が何でこんなに出てくるのでしょうか。

○**大岩教育振興課長** 前年度が3万5,560円、今年度が3万9,560円ということで、4,000円今年度ふえているんですけど、小・中学校の運動場の使用料が5件、今年度貸していますけど、前年度が1件ということで4,000円ふえております。

○**中西委員** 今のお話ですと、小学校の施設の使用料がふえたということなんですか。行政財産の使用料と区別されているので。

○**大岩教育振興課長** 学校の運動場使用料ということで5件今年度、旧日生南小学校が3,000円と伊部小学校が1,000円と日生中学校が1,000円ということで、これは学校とかで催し物があるときに、例えば駐車場使用料だとかということでいただいているということで行政財産使用料ということになっております。

○**中西委員** 同じ27ページの教育使用料、社会教育使用料、ここで行政財産使用料というのが出てくるわけですが、これは何を指すのでしょうか。

それと、昨年度から見ると30万円ほど違ってきているので、どういう意味なんでしょうか。

○**横山文化振興課長** こちらに上がっております44万3,320円の内訳としましては、備前焼ミュージアムの屋上にあります携帯電話の基地局の設置分が2件で33万9,180円、それから埋蔵文化財管理センターの隣にあります倉庫のところの旭川荘いんべ通園センターの駐車場代分9万7,640円と、大阪管区气象台の貸し地で6,500円、これの合計で44万3,320円が上がっております。

○**中西委員** こういうものは、金額的には余り変動しないものなんですけども、昨年が71万2,0

00円からだったと思うんですけども、今年度はどうしてこれがこういうふうには減額になるんでしょう。

○田原教育部長 記憶なんですけど、昨年度文化振興のときに1年おくれで歳入が入ってきたという形で、その年度については歳入が多くなったと記憶しております。

○守井委員 2年分入ったんじゃない。

○中西委員 昨年度が1年おくれで入ってきたものがあるというんですけど、今伺っているのと大体余りおくれで入ってくるようなものは相手が相手だけに余りないような気がするんですけども、強いて言えば29年度はどこだったんでしょうか。

○橋本委員長 29年度分が1年おくれで入ってきたのはどこから入ってきたかということ聞きよんです。

○横山文化振興課長 この携帯電話基地局がUQコミュニケーションズというところとソフトバンクのものになります。

まず、29年度分がUQとソフトバンクで33万6,420円、28年度分のソフトバンクの26万8,785円、どうも1カ月分は納めていたんですけども、11カ月分が未納となっておった分を追加しまして、トータル60万5,205円という内訳になります。

○橋本委員長 休憩します。

午前9時50分 休憩

午前9時51分 再開

○橋本委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ほかにございませんか、この該当範囲で。22から29ということで。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

じゃあ、次の範囲に移ります。

28ページから33ページの間で、国庫支出金のうち質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員 32、33ページ、2つ聞きたいところあるんですけども、教育費国庫補助金の5節文化財保護費補助金、そこで史跡等購入事業補助金1,000万円が補助金とされております。ここについて、お知らせを願いたい。

○横山文化振興課長 こちらにつきましては、文化財の名称としましては備前陶器窯跡になりまして、伊部南大窯の指定地内の4筆、3,092平米になります。

○掛谷委員 これは市単独、国の補助金が入っていますが、県なんかはもうほとんどないと。これは国の補助のみですかね。

○横山文化振興課長 精算額としまして、備前市の負担額が250万1,455円になります。あとは国ですね。

○掛谷委員 次に、埋蔵文化財緊急調査事業補助金というのが388万9,000円、ここでも補助金を受けております。これも同じような感じでどこの緊急調査をやられたのか。

○**横山文化振興課長** こちらの調査につきましては、平成16年度に策定しました史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づくものでございまして、熊山山麓南面に展開する中世備前焼窯跡のデータ化をしております。具体的には熊山山麓の航空測量、現地踏査等による備前焼の生産の場の立体的把握を行いました。

○**掛谷委員** これも国、市と同じようなことなんで、内訳はどうなんでしょうか。

○**横山文化振興課長** こちらにつきましては、備前市の負担額が389万322円となります。

○**掛谷委員** 6節の学校管理費の補助金についてお伺いします。

41ページの部活動指導員配置促進事業補助金が40万4,000円、これは33ページの国庫補助でもありました。41ページは、県の補助金で国と同じ額が計上されております。国、県、市は持ち出しがまずないのかどうかということと、これは何人どこどこに配置をされた、どういった部活動の配置をされたのか、その辺の詳しいところを教えてください。

○**朝倉学校教育課長** 部活動指導員の配置事業につきましては、30年度から国、県、市、それぞれ3分の1ずつの事業になっております。したがって、市におきましても40万4,000円の費用がかかっております。

それから、30年度の実施校につきましては4校、備前中学校、伊里中学校、日生中学校、吉永中学校です。備前中学校は、バドミントン、伊里中学校がサッカーとソフトテニス、日生中学校がアーチェリー、吉永中学校がソフトテニス、以上の4校で5種目ということになっております。

○**掛谷委員** そういう形で国の制度として採用されてきてるわけなんですけど、この指導者の方々がされることについてどういったいい効果が出ているのか、マイナスではないと思うんですけど。要するに、教員の負担軽減というのが一つ、もう一つは専門の指導員でしょうから、いい結果が出てきているのかなと思ったりするんですけども、そのあたりはどのように分析をされておりますか。

○**朝倉学校教育課長** 成果につきましては、今委員おっしゃられた2点だと思います。その中で、この事業につきまして効果検証といたしましては、指導員の配置により部活動の顧問が他の授業に従事する時間がどれだけできたかというところで見えております。当初、目標といたしましては410時間の時間を生み出せるのではないかとということで取り組みましたが、結果といたしましては394時間ということで、達成率96%ということになっております。100%じゃありませんが、効果は上がっているというふうに認識しております。

○**掛谷委員** 教員の負担軽減という意味でわかりました。

もう一つは、専門の方々が指導されることによって部活が強くなったとか、そちらのほうの成果というのは何かあったんでしょうか。

○**朝倉学校教育課長** 明確にこうなりましたというのはなかなか申し上げにくいところではあります。専門的な指導をしていただくということで生涯スポーツであるとか、それから子供たち

の意欲とかというあたりにはつながっているのかなあというふうに思っております。

○尾川委員 今の関連で、今課長そういうふうに効果がないとは言わんけど、効果はあると。子供たちの反応を聞くことがあるんですか、教育委員会か、あるいは学校サイドで。部活のこういう先生の時間短縮というか、働き方改革だけで子供たちの技術的な向上とか、そういう面での、あるいは指導力というんか、どういう人が携わっとんか、専門家でどのくらい選手の実績がある人かどうかわからんですけど、そのあたりの評価というのは把握されとんですか。

○朝倉学校教育課長 先ほど2点、教職員の負担軽減と、それから子供たちの指導力のというようなあたりでこの事業の効果を申しましたが、もともとの国のこの事業の狙いといたしましては、どちらかという教職員の負担軽減のほうにありますので、そちらのほうは先ほど申し上げたような効果検証はしておりますが、生徒の意欲とか、それから競技力の向上というようなあたりは調査はできておりません。

○尾川委員 先生のどっちつかずというか、そのあたりも生徒に対しての指導力がねえからというてバックして、ほな指導員頼まんのかというたら、またこれも問題あると思うんで、そういう面からもうちょっと子供たちがどういう捉え方しとんかということ、現役の先生とOB的な人みたいな感じがすんですけど、そのあたりの指導力というんか、教育面から見たときの。学校内でやるということになったら、クラブチームじゃねえんじゃから、そら自分で希望してよそへ行くというわけにはいかんので、そのあたり少し着目して、あれもこれもというわけにはいかんと思うんですけど、生徒視点の立場からもある程度見てもらえたらなと思うんですけど、いかがですか。

○朝倉学校教育課長 御存じのように、中学校の部活動の指導者につきましても、なかなか専門種目の教員が指導できないという現状もございますので、ただその中で指導いただいているということなので、あからさまに指導員と、それから顧問の先生とでどうですかという聞き方はなかなか難しいのかなあとは思いますが、ただ生徒の意欲につながっているかどうかというようなあたりは気をつけて学校の現状等確認していこうと思っております。

○尾川委員 具体的に言うたら、全日本で優勝しとる片上のがいて、邑中へ行ったんですよ。何で行ったかという、ええ指導者がおるから行くということで。ああいうことで行けるんかどうかは別にして、そういうふうな子供もおるんですから、そういう視点で。ただ、先生の軽減、労働の軽減だけを目的にということじゃなしに、あれもこれもというわけにいかんですけど、そういう視点もあるということ、課長は認識してもらいてえなあと思うて話ししよんですけどな。

朝倉課長。

○朝倉学校教育課長 先ほどお話があった生徒につきましては、一応転居しての通学という形になっております。ただ、委員おっしゃられたような内情も少なからずあるのかなあというふうには思っておりますが、今後そういった子供たちの競技力についての視点というのも持って話を聞いていこうかなと思っております。

○青山委員 関連してなんですけど、ここに上げられている4校の種目というのは、学校側は専門的な指導をしてもらいたいというふうな形で頼まれとんじやないのかなあと思うんです。むしろ教員の軽減ということよりは指導力、あるいは生徒への影響というようなことを考えられたと思うんで、その辺で尾川委員の言われたような観点でも調査研究していただきたいと思います。要望です。

○藪内委員 先ほどの尾川委員の質問に関連して、つい先日大きな事件、事故といいますか、鹿児島県の泉中央ですか、指導者が暴力振るったやつがありましたけど、指導者のそういう人格面というか、そういう選考はどのようにされているんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 指導員につきましては、学校でまず種目を決めていただいて、その後指導員についても探していただいている状況です。30年度につきましては、先ほどの5名ですが、そのうちの4名につきましては非常勤講師で現任校に勤務されている方、非常勤講師は支援員で現任校に勤務されている方、それからもう一名につきましては高等学校の教員で指導歴のある方、もう一名につきましては民間で競技経験のある方ということで、学校のほうでも子供たちの指導をきちっとしていただける方ということで選考いただいておりますし、それからこの事業を行うに当たりまして、教育委員会のほうでも先ほど言われましたような不祥事等が起こらないように研修をした上で勤務のほうをお願いしておりますので、そのあたりはしっかり様子等も聞きながらとは思いますが、十分確認した上での採用ができていると認識しております。

○藪内委員 東須磨の先生の問題もありますし、実際の先生、それから外から頼まれる人に関しても厳重によろしくをお願いします。

○守井委員 33ページの学校管理費補助金で、収入未済額が3,300万円というふうに年度が変わってから入ってくるんだらうと思うんですけれども、これの国からのお金が次の年に入ってくるんだらうと思うんですけど、どの事業でどういう理由でこういうことになっているのか、報告願えますか。

○大岩教育振興課長 こちらは空調設備の補助金と、小学校の特別教室の空調設備の補助金と、あと小学校のブロック塀補助金ということで繰越事業になりますので、事業が完成した今年度に入ってくる予定となっております。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

次は、34ページから45ページまでで、県の支出金のうちの文教関係ということで指定したいと思います。

○掛谷委員 38、39ページ、7節の児童福祉総務費補助金、地域組織活動育成費補助金が60万8,000円ほどありますが、これは地域のどういうふうな活動に対する補助金なのかと。どの地域にどういった補助金を出しているのか、お伺いをしたいと思います。

○波多野幼児教育課長 地域組織活動育成費補助金でございますが、これは各保育園、こども園にいらっしゃる、昔でいいます母親クラブ、今は保護者会というんですけども、その活動に対して特に研修を行ったり、それから親睦行事を行ったり、そういったものに支出するものであります。昨年度実績が、全部で12園、ただし20人以上の保護者会を組織することが条件になっておりますので、14園ありましたが、実際は12園支出しております。支出額のほうは15万2,000円の12園で182万4,000円で、そのうち3分の1のほうを県のほうが補助していただいておりますので、60万8,000円歳入をしております。

○尾川委員 関連で、今話聞いて12園で15万円、15万2,000円というような話を聞いたんですけど、活動育成費とはどういう内容のことをやって、市として県が3分の1なんで、どうかかわりを持ってどういう事業をやっとんか、詳細を教えてもらえたらと思うんですが。

○波多野幼児教育課長 活動の詳細でございますが、PTA活動に近いようなことございまして、保護者会でまず講師を呼んで、例えば家庭教育の学習をする、それから特に保育園、こども園の2、3号認定の方というのは日ごろ働いてらっしゃって横のつながりがないものですから、年に2回ほど子供を交えた親睦行事を行う、それからまた園への奉仕活動、それから地域行事にも参加をするというところを出している補助であります。私どもの幼児教育課のほうも、年に一度3月には活動内容とお金の使い方について監査を行うようにしております。

○尾川委員 それで、その金の一部が施設の整備とか備品とかというようなことでも構わんわけですか。

○波多野幼児教育課長 備品というよりも、園によっては絵本等の購入に充てるところもございしますが、これはあくまでも保護者会からの寄贈という形にしております。

○中西委員 43ページの県委託金のところでの基幹統計費委託金、学校基本調査委託金わずか7,000円なんですけども、7,000円で何ができるのかなというのが大変疑問に思いまして、これはどういうものを目的でしたものだったんでしょうか。

○大岩教育振興課長 こちらの委託金につきましては、5月1日現在の基準日で学級数であるとか、児童・生徒数であるとか、教員数の配置であるとかといったところを県から委託されたものに対しまして、回答した分に対する県の委託金でございます。

○守井委員 45ページの教育費県委託金、教育研修諸費委託金、放課後学習サポート事業委託金、小中一貫をやっていたのかなあというような感じなんですけど、30年度の実績と、それからその下の小学校の不登校対策実践研究事業委託金の事業内容を報告いただけますでしょうか。

○朝倉学校教育課長 まず、放課後学習サポート事業委託金につきましては、30年度は希望する10校で実施をしております。小学校が7校、中学校が3校です。小学校は、香登小、伊部小、片上小、伊里小、三石小、日生東小、吉永小、中学校3校は伊里中、日生中、吉永中であります。

それから、小学校における不登校対策等実践研究事業につきましては、これ登校支援員の配置

ということで、長欠になる子を防止するということで、なかなか学校に来にくい子に対して本来教員が声かけをしたりするところを、支援員を配置することによって学校へ足が向くようにしている事業であります。

○守井委員 登校支援のほうが100万円ほどふえてるんですかね。それは登校指導員がふえたということなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 希望する学校に対しての配置ということになりますので、30年度は片上小学校、日生東小学校、吉永小学校で実施しております。実績による増ということであります。

○守井委員 先ほどの放課後サポート事業のほうで小・中というようなことなんですけど、内容はどのような内容でやられているんですかね。

○朝倉学校教育課長 それぞれ対象は違うんですが、これも地域の方でありますとか、場合によっては非常勤講師、教育支援員等で学校に入っておられる方に放課後の時間を使いまして学習指導のお手伝いをさせていただくという事業であります。

○守井委員 登校支援員の増員によって登校率というのめかなり上がっておるのかなあというような感じなんです。こっちの評価のほうにもあるんですけども、去年はかなり率が上がって、ことし横ばいみたいな感じで、その成果はどんなんですか。

○朝倉学校教育課長 全体の学校の状況ではありますが、実施している学校につきましては事業の実施によって不登校の増加は防げているということで、おおむね良好な評価をいただいております。

○掛谷委員 今の不登校の関連でお聞きするんですけども、希望する学校が手を挙げてやると。今回が片上と日生ということなんですけど、こういったものが逆に言いますとそういうところが余りないところはそういう手を挙げてないという意味合いで、片上、日生が特に問題とはいいませんけども、そういう対策を講じたいということでやっておられるんですけども、そういう傾向があつて手を挙げられているのかというのが一つ。もう一つは具体的に訪問活動なんかやっているんじゃないかと思うんですけども、今成果の話はまあまあという話ですけど、どういった具体的な活動内容をされておるのかというところもあわせて2点お聞きしたいと思います、どうでしょうか。

○朝倉学校教育課長 先ほどもお話をいたしました、全ての小学校に情報提供した上で、特に課題を感じている学校がこの事業に手を挙げているというふうに認識しております。

内容につきましては、学校へ来にくい児童に対しまして家庭へ迎えに行くというようなこと、それから学校に来た後なかなか教室へ入りにくい状況のときに、その支援員が横へついて指導しながら教室へと導くというような活動を主にさせていただいております。

○掛谷委員 もう一つお聞きしたいのは、支援員は片上に1名、日生に1名ということでよかったですでしょうか。

○朝倉学校教育課長 片上小学校は1名でお願いしております。それから、日生東小学校も1名

ですが、吉永小学校につきましては2名の方でお願いしております。これは毎日なかなか都合がつきにくいということで、2名で5日間をカバーしている状況です。

○尾川委員 関連なんですけど、この不登校対策というのは、この施設評価シートには小学校のことはどうもよう書いてねえんですけど、その事業というのは来年もあるんですか。それで今後どういうふうに教育委員会として捉えて、その不登校対策というのを考えられとんですか。その辺説明してください。

○朝倉学校教育課長 この県の事業につきましては、本年度も実施しております。それから、不登校につきましては、小学校の事業なんですけど、中学校になって不登校になる子につきましては、小学校のときから欠席がちであったりとか、登校渋りが見られる子が多い傾向はございます。ですから、県につきましても、市につきましても、小学校の早い段階から登校渋りをなくすることで、ひいては施策評価等で上げております中学校の不登校出現率の低下にもつながるのかなあというふうに考えております。

○尾川委員 効果があるということなんですけど、今3校小学校名前が出たんですけど、数が多いというか、そういう捉え方でなくて、全校に広めていくというか、不登校対策というのをこういう支援員を配置するという考え方はないんですか。

○朝倉学校教育課長 あくまで希望でということですので、実施しております3校の状況、あるいは成果等もそれぞれの学校にお伝えすることによって学校でこの事業を有効であろうと思って使っていただくのが一番かなあと思うておりますので、その成果についてはほかの学校にもお知らせをしながら、希望するところには積極的に配置していこうと考えております。

○尾川委員 それで、この予算というのはもう上限限られて、もうこれ枠ということは何か県のほうで弾力的に運営できるような要素があるんですか。

○朝倉学校教育課長 一応、この事業につきましては県のほうで日数、時間数等を決められておりますので、その時間数を満たすもので、かつ県の予算の範囲内であれば認められるかなあというふうに思っております。

○尾川委員 ぜひこの不登校対策というのは継続して細かいのをやってほしいと思うんですが、その点いかがですか。

○朝倉学校教育課長 委員おっしゃられたとおり、不登校というのは防ぎたいという気持ちは非常に強く持っております。この事業の活用もですが、そのほかの施策についても今後研究をしながら、不登校を防ぐ取り組みは大切にしていこうと思っております。

○守井委員 関連で、中学校の不登校出現率はここの事業評価に出てるんですけど、小学校の不登校の出現率というのはチェックあるいは計算実績として出されとる成果があるんか、ないんか、その辺お聞きしたい。30年度わかれば教えていただけたら。

○朝倉学校教育課長 30年度につきましては、問題行動等調査の結果がもうしばらくすると公表されると思いますので、また改めて後日その報告をさせていただけたらと思っております。

○中西委員 45ページの教育費県委託金、教育研修諸費委託金の小学校における不登校対策実践研究事業委託金、私は事業の中については今回ここではお伺いをしないわけですが、昨年度が149万8,000円の決算になって、その前年度は331万8,000円と、年度によってこんなに差が出てくるものなのかどうか。これは県のほうが備前市のほうに上げますよということよりも、備前市のほうがこれだけ下さいということで上げてるのか。先ほどからのお話を聞きますと、不登校はふえているんじゃないかというふうな感じもするんですが、どうして年度によってこんなに金額の浮き沈みが激しいのか、お伺いをしたい。

○朝倉学校教育課長 事業につきましては、希望する学校は全て一応上げておりますが、先ほどの県の基準を満たした場合には県による補助対象になりますが、県の基準を満たさないものも予算要求を以前したことがございます。ただ、実施といたしましては継続的な実施ということで、県のほうから対象校として認められたところを実施校として行っていることによって増減が出ているというふうに認識しています。

○中西委員 そうしますと、ここに出てくる県の事業委託金というのは、県の基準に沿った基準で出されていると。備前市における小学生の不登校の出現とは余り関係がないものだというふうになるのでしょうか。

○朝倉学校教育課長 県の事業の活用ということでここは上げておりますが、ただ県の基準を満たさないところもそういう不登校に対しての取り組みが必要なところにつきましては、教育支援員を配置しております。教育支援員とか非常勤講師等を配置しておりますので、基準を満たさないけれども、必要がある学校につきましては、そうした市費で雇用している方を活用して、同様の取り組みをすることは可能ということで、学校のほうにはお話をしております。

○藪内委員 45ページ、9目2節社会教育総務費委託金、中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業委託金の具体的内容をお教えてください。

○竹林社会教育課長 こちらの委託金につきましては、歳出のほうでいきますと中高生だつびです。30年度は3回実施しております、そちらの経費に充当しているものでございます。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

44ページから47ページの範囲で財産収入のうちの文教関係ということで。

質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員 46、47ページ、利子及び配当金のところの米百俵基金積立金利子84万円、これは結構な利子が入っております。額も大きいんですけども、どういう金融機関に配分されて、どれぐらいの利率なのか含めて詳しく教えていただきたいと思います。

○大岩教育振興課長 これは2億5,000万円そのものにかかっている利子なんですけど、運用は会計課にお願いしているもので、その辺の中身につきましては勉強不足なもので、申しわけ

ございません。

○掛谷委員 これは教育委員会所轄でしょ。違うんだったらいいけど。

○大岩教育振興課長 利子及び配当金の米百俵基金積立金利子84万217円の運用益についてなんですけど、今会計課のほうで一括管理をしていただいております。基金全体の話として、金額としましては定期製の預金が68億円。それから、債権は10年物の国債であるとか20年物の国債、これが39億円、それからあと普通預金が31億円ということで運用をしております。

主な利子につきましては、定期預金は幅があるんですけども、0.08%から0.3%、国債のほうなんですけど、こちら中銀であるとか証券会社になるんですけど、0.2%から1.3%、これで運用をしております。これを基金の残高を月で案分いたしまして計算したものが、84万217円となっておりますので、米百俵基金だけで幾らというような設定はないんですけども、全体での一括運用でこういった利益が上がっております。

○掛谷委員 表現はそういう表現の仕方しかできないん、米百俵だけではできないということをやむを得ん表現だということに理解していいんですよ。

○橋本委員長 理解しとってください。

○守井委員 47ページの物品売払収入の書籍・冊子売払収入のうち文化振興課所管が43万1,100円あるというようなことなんですけど、重立ったところだけでいいんでどういふ冊子を販売されたんか、報告願えますか。

○横山文化振興課長 各企画展、特別展等で発行している図録等になります。備前焼ミュージアムではこの43万1,100円のうち27万9,900円、それから歴史民俗資料館では8万8,500円、文化財係のほうで4万円というふうになっております。

○守井委員 冊子じゃなくて図録がほとんどなんですか。

○横山文化振興課長 そのとおりでございます。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

48ページから53ページまでの間で寄附金とか繰入金でございます。そのうちの文教関係について質疑を希望される方おられますか。

○守井委員 49ページの文化施設費寄附金なんですが、備前焼ミュージアム寄附金、これは陶友会からのものだろうと思うんですけども、いつまであるか、報告願えますか。

○横山文化振興課長 当時5年間寄附するということで、平成27年から令和元年度までになります。

○守井委員 ということは、今年度までということに理解しとってよろしいんですか。

○横山文化振興課長 そのとおりでございます。

○尾川委員 関連するんですけど、前聞いたら28年で聞いとんじゃけど、27年度ですか。5

年というは聞いとんじゃ。

○横山文化振興課長 27年からでございます。

○尾川委員 それから、たしかそのときの話で、年100万円という話を聞いたと思うんですわ。記憶がある。それが、例えば95万円とか、100万円切つとるとというのはどういう理由で下がったり上がったりしよるわけ。

○横山文化振興課長 当時の確約書でいいますと、従前に陶友会会員が納めた会費相当分を5年間にわたり寄附するというようになっておりますので、会員数の増減により変化しているものだと思います。

○尾川委員 同じことを言うんじゃけど、最初100万円、それはアバウトできとんかもしれんけど、100万円というて聞いとる。陶友会の会員の会員数というか、その現状でいくというふうな話はなかったように思う。それは間違いないですか。

○横山文化振興課長 確約書には毎年100万円というような金額の記載はございません。委員さんが言われたように、私も100万円というふうに聞いてはありましたけども、現状こういふふうになっております。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

52ページから55ページの諸収入のうちの文教関係。

質疑を希望される方おられますか。

○中西委員 55ページの奨学資金貸付金元利収入、奨学資金返還金というのがありますが、これは昨年度と単純に比較すると100万円少ないわけですけども、これは人数とすれば幾らぐらいの人が返しているんでしょうか。

○竹林社会教育課長 一番上の奨学資金返還金、こちらの分につきましては現年分としまして、30年度でいいますと対象人数としましては38人おられます。

○中西委員 去年との差が出てくるのはどういうことなんでしょうか。

○竹林社会教育課長 ちなみに去年でいいますと対象者が44名おられたというところで、繰上償還等もございまして、人数が減少しているものと思われます。

○中西委員 つまり返すべき人の人数が少なくなっていると思ったらいいわけですか。

○竹林社会教育課長 こちらについてはそういうことでございます。

○守井委員 同じことなんですけど、調定額が1,021万円というようなことになって、収入済額が430万円と、半分以下なんですよね。払えない状況があるというように見えるんですけど、何らかの対策をやっていかないといけないんじゃないかなというような感じがするんですけど、どんなんでしょうか。

○竹林社会教育課長 1,000万円のうち半額程度が滞納分ということで今残っている現状で

ございます。そういった方につきましては、年2回程度は電話催告等も行いながら、場合によっては訪問等も行っているという状況でございます。

○守井委員 年で5,000円かぐらいの支払いになるんかわからないんですけど、1人当たり大体どのぐらいの返還金をお願いしているんですか。

○竹林社会教育課長 1人当たりというのは具体的には出てきませんが、こちらの527万円程度滞納分の調定がございますけども、こちらに対する対象者としては15名おられるというところが現状でございます。

○守井委員 整理か何かして頑張ってもらって、奨学金を受けられるぐらいの人ですから、いろいろ熱心な人だろうと思うから、払う気になったら払えるんじゃないんか思うんで、できるだけそれを解消するような方策を考えにやいけないんじゃないんか思うんです。その点何か対策を、通常どおりじゃなくて何か考えにやいかんのじゃないんか思うんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長 こちらにつきましては、その方の現状等も、なるべく接触して現状もお聞きしながら対応、訪問などもやっていきたいと思っています。

○守井委員 事情がある場合なんか減免できるような制度をつくってあげて、清算できるような形も考えたらいんじゃないんか思うんですけど、いかがですか。

○竹林社会教育課長 今のところ、減免というような制度はございませんが、ほかの債権等もあわせてどういったやり方があるかということも研修していきたいと思えます。

○中西委員 関連で、さっきの課長のお話ですとこの368万2,546円に対して32人となると、平均32人が返しているということですよ。32人が返してこの金額となるとなると大体皆さん1年間幾らぐらいを返しておられるのでしょうか。

○竹林社会教育課長 先ほど申し上げました368万円に対して38人対象者がおります。

○中西委員 1人お幾らぐらいに大体なるのでしょうか。

○竹林社会教育課長 今平均出してみますと、年で9万7,000円弱になるのかなあと。

○橋本委員長 よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の範囲に移りたいと思います。

54ページから63ページの間の諸収入で社会教育費、文化振興費、教育振興課と幼児教育課の所管部分で質疑を希望される方おられますか。

○掛谷委員 56、57ページ、14節の職員給食費徴収金が1,195万円ほどあります。これは小学校、中学校の関係の職員の給食だと思うんですけど、まずその内訳、それから1食当たりは幾らぐらいを徴収されているのか、お聞きしたいと思います。

○波多野幼児教育課長 この分につきましては、幼児教育課の所管分でございます。

パートさんも含めまして約160人の職員に対しまして1食300円、20日平均の12カ月分でございます。

○青山委員 同じ57ページの19節入場料及び参加料なんですけど、スポーツ教室・大会参加料というのが6万2,000円なんですけど、これはどういうふうな内容なんでしょう。

○竹林社会教育課長 こちらの参加料につきましては、まず陸上競技の教室が1万2,000円、それからテニススクールが1万7,000円、それからソフトテニス教室が3万3,000円という内訳になってございます。

○中西委員 雑入のところで、この別紙2を見ますと、機械設置料、ATM設置料というのがありますが、これは14万4,220円、教育振興課ということになってるんですけど、このATMというのはどちらにあるんでしょうか。

○大岩教育振興課長 教育委員会の片上分庁舎にあります農協さんのATMでございます。

○中西委員 続きまして、入場料及び参加料で、イベント参加料1万7,500円があるんですが、これは何なんでしょうか。

○横山文化振興課長 こちらにつきましては、備前焼ミュージアムのワークショップ参加料の1万4,000円と、加子浦歴史文化館の郷土料理教室のほうの参加料3,500円になります。

○中西委員 続きまして、同じページの入場料及び参加料のところでの公民館講座受講料なんですけども、昨年が18万3,500円、今年度の28万9,700円、これは10万円からふえてますんで、ふえた理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長 こちらにつきましては、地域公民館で行っています講座等でございますけども、中央公民館、日生地域公民館、吉永公民館等の講座の参加料となっております。その中で、今回ふえていますのは新たな講座を中央公民館等で実施したものに対する参加料が増額になっております。

○中西委員 新たな講座というのはどういうものがふえたんでしょうか。

○竹林社会教育課長 具体的な講座としては宇宙の学校というような講座を新たに30年度は実施をしております、そのあたりの参加料の増かだと思います。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、文教関係歳入全般を通じて質疑漏れはありませんか。

○石原委員 27ページなんですけれども、社会教育使用料の美術館使用料、298万8,610円なんですけれども、こちらの施設の内訳はどうなんでしょうか。

○横山文化振興課長 こちらにつきましては、備前焼ミュージアムの入館料のほうは298万850円と、吉永美術館の使用料のほうは7,760円となります。

○石原委員 たしか、加子浦の歴史文化館のお部屋を使ったら幾らとかあったように、そっちはないんですかね。

○横山文化振興課長 加子浦につきましては、別途加子浦歴史文化館使用料というのがあるんですけども、30年度の利用は市の主催の利用のみで免除となっております。

○石原委員 それから、ほぼ備前焼ミュージアムということなんですけれども、備前焼ミュージアムにおける入館者の方の内訳というんですか、一般であったり、中学生以下であったり、65歳以上であったり、どこまで規定されとったか記憶にないんですけど、内訳がわかれば。

○横山文化振興課長 一般的な大人につきましては、個人と団体とあるんですが、個人につきましては180万6,000円、団体で14万5,600円、それから高校、大学生につきましては5万5,200円と団体で1万9,000円、65歳以上で、これが備前市と赤穂市、上郡の場合、個人が2万7500円、団体はございません。それから、備前、赤穂、上郡以外での個人が75万6,800円、団体が12万8,400円、その他で岡山旅ネットクーポン等で入られた方が4万2,800円、団体が2,000円、その他割引で4万3,000円というふうになっております。

○石原委員 ありがとうございます。金額の内訳細かく御説明をいただいたところなんですけれども、もう単純に、中学生以下が何人さんだったかというたりするのは決算ですから金額は発生せんけん、わからんのですかね。

○横山文化振興課長 中学以下では243人、それから学校教育で525名の児童・生徒等が入っております。

○石原委員 じゃあ、先ほど御説明あった8,892名から先ほどあった中学生以下合わせて768名を引いたのが有料の入館の方という捉えでよろしいですか。

○横山文化振興課長 その他障害者の方等が若干おられます。そこも人数には積算しておりますけれども、入場料は免除と。御本人が196、付き添いが131でございます。

○掛谷委員 62、63ページ、38節教育費雑入で特定教育助成金57万円が決算されております。この内容について教えてください。

○竹林社会教育課長 こちらにつきましては、福武教育文化振興財団からの助成金ということになります。内訳としましては、体験学習で行っています小学校の英語研修、こちらに対しまして15万円、それから英語力向上事業、こちらで27万円、先ほどもありましたけど、中高生だっぴ、こちらに対しましても15万円の内訳になっております。

○掛谷委員 そこで一つだけお伺いするんですけども、ベネッセからの補助金、助成金を受けてやっています。なかなか一遍に英語の習得というのは難しい。どういった成果というか、英語力というんか、英語に親しむということが一番の目的なんでしょう。そういった意味でのこの助成金活用がどういったメリットが出てきているのか、そのあたりの効果についてもお伺いしたいんですけど。どういうふうに分析されていますでしょうか。

○竹林社会教育課長 小さいころから英語に親しんでいただくということで、いろいろな体験学習と絡めましてこういった英語に触れる機会を設けさせていただくということで、そういった英語に対するなれといいますか、そういったものの向上に期待されていると感じております。

○掛谷委員 そこで、2つ追加で教えてほしいんですが、これはいつまで続く事業だったんかな

と。これはベネッセから助成金を受けているので、多分その報告、事業をした成果ですね、こういうふうなことをやりましたという報告はベネッセにはされているとは思いますが、どういふふうなことになっているのでしょうか。

○**竹林社会教育課長** 例年募集等もありまして、該当する事業がございましたら応募させていただいているという状況でございます。また、事業に対しまして実績報告、それはもちろん提出をしているという中で、先ほども言いましたけども、ふだんの生活の中では触れることができないというような中で、こういった事業の中で外国人等とも触れ合い、英語の学習の意欲を高めていただくというようなことでの実績ということで報告はしております。

○**掛谷委員** 具体的にどこでどういうふうな形で、おやりになっているのか。iPadなんか使ったりしたようなことが何かあったような記憶をするんですけど、具体的にその中身について、もうちょっと詳しく教えてください。

○**竹林社会教育課長** まず、イングリッシュキャンプにつきましては、閑谷の教育センター、こちらのほうで実施をしております。

あと、英語の体験学習につきましては、いろいろな現地のほうでやっていますが、伊部地区、頭島地区とか、現地に行きまして英語でのコミュニケーション、外国人の方と触れ合うという場を提供させていただいております。

○**掛谷委員** それは地区の要請じゃなくて、小学校の要請でそういう形になってやっているのか、教育委員会としてそれを何か募集というか、こういうことをやるという、どこが采配を振っているのか、小学校か、教育委員会か、地域は違うと思うんだけど、そのあたりはどういうふうになっているのかな、これは。

○**竹林社会教育課長** 基本的にはこちらの教育委員会のほうで市内全域一応いろいろなところで、吉永でも実施はしておりますし、全域において実施するようにしております。

○**掛谷委員** 実施した一覧表でも提出いただければと思いますけど、ありますか。出していただきたいんですけど。

○**竹林社会教育課長** 一覧表か何かわかるものを提出したいと思います。

○**中西委員** 63ページ、教育費雑入でお尋ねをしたいんですが、市体育協会補助金返還金8万2,324円というのが計上されています。理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○**竹林社会教育課長** こちらにつきましては、29年度分の事業に対しまして補助対象経費としては見れない対象外経費があるということで精査しまして、30年度で補助金のほうを市のほうへ体育協会から返還をしております。

○**中西委員** その上の市の青少年健全育成推進本部補助金返還金、この返還の理由は何なんでしょうか。

○**竹林社会教育課長** こちらも29年度の事業のものになりますけども、必要経費が決算額に対しまして補助金額未満であったと。本部の運営費、こちらの差額について市のほうへ返還をして

いるものでございます。

○中西委員 としますと、大体この健全育成推進本部補助金というのは、補助金を出している会計というのは単年度の会計で精査しているということなんですか。よく見るのは補助金をそのまま次年度へ繰り越しをしているというようなことがあるんですが、ここはそういうやり方をやっているわけですか。

○竹林社会教育課長 基本的には単年度で見ながら精算するようにしております。

○橋本委員長 ほかに歳入関係でございませうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、歳入関係を終了したいと思います。

この際、暫時休憩をいたします。

午前11時03分 休憩

午前11時16分 再開

○橋本委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

それでは、次に歳出に入ります。

決算書は110ページから、所管別分類表は4ページをお開きください。

それでは、所管別分類表に基づきまして、幾つか範囲を分けていきたいと思ひます。

まずは110ページから119ページで民生費、児童福祉費につきまして、文教関係に関する質疑を希望される方は挙手願ひます。

○藪内委員 115ページ、13節委託料、警備委託料に関連して。

2園に、監視カメラが設置されていないとお聞きしましたが、必要であるからほかの園にはつけているのでしようから、今後その2園に設置予定とかありますのでしようか。

○波多野幼児教育課長 まず、日生につきましては認定こども園になったときにつけます。それから、香登のこども園、それから西鶴山保育園は来年の予算計上をして監視カメラをつけるつもりにしております。

○掛谷委員 その関連で一つだけ教えてほしいんですが、つけたものがどういふシステムで、例えば不審者に入つてとられたとか、何か荒らされた、いろいろなことがあつたことについてカメラでそれを見て分析するんだと思ひますが、そういったケースが一つはあつたのかということと、どういふシステムに流れとしてはなつていふのかというところを教えてほしいんです。

○波多野幼児教育課長 ただいまの御質問ですが、園の中につきましてはセコム、それからALSOK等の警備会社と非常警報装置のほうで対応してございまして、現在使つております監視カメラは園の玄関から駐車場付近を写すものであります。園の職員室には専用のパソコンを置いてございまして、録画したものが再生できるようになってございまして、設置以来の使用例ですが、今のところ駐車場のトラブルで見せていただきたいと言われた件が1件のみでございませう。

○尾川委員 115ページの賃金のところで、まず1点目が臨時雇ひ賃金の2億円。これの人員

は何人ですか。

○波多野幼児教育課長 資料の11ページ、12ページがことしの3月のデータでございます。まず、幼稚園の臨時雇いが2人と10人で12人です。それから、次のページですが、保育園の現状についてのほうにこども園の2、3号認定も入っておりますので、43人と23人、合わせまして66人でございます。

○尾川委員 今、人数聞いたんですけど、課長はこの臨時雇い賃金の1人当たりの計算したことはあるん。どういう認識持っとられるん。

○波多野幼児教育課長 1人当たりでいいますと、フルタイムの方と、6.5時間、4時間、それぞれ違いはございますが、賃金表にありますフルタイムの方で月額17万円、6.5時間の方で12万円、パートの方は時給1,060円が適用されるものということでございます。

○尾川委員 一遍年収という感覚でざっくり1人当たり何ぼとか、200万円とか、300万円とか、そういう捉え方とか、それから年収という形で比較したり。というのが、保育士足らんといいて処遇が悪いという声を聞くわけですね。どっこもそういう声があって、例えば行政職に比べたら非常にだんだんカーブが、角度が違うからもう定年になるようになってきたら相当の行政職と保育士の差というのが、そら仕事の内容も能力も違うから賃金違うて当たり前かもしれないけど、そういう感覚で見てみて、例えば他の自治体との比較して初任給高え、高えというて言うけど、実際はいじゃあ10年たったとか、ある程度何歳とかある時点をとって比較したりして、一遍そういう見方でチェックしてほしいんですね。

そしたらまた、違った処遇というか、待遇の面での見方が出てくると思う。そら、賃金ばあでも競争せえでも、どうしても弱えところが人とれんというのはわかっただけですけど、うちらもよう経験しとるから。だから、その辺をもうちょっと切り口変えて年収とか、賞与含めて年収とか、それからいろんな年代とかというのを見て、ただ初任給が高けえんですと、それで賞与はあります。賞与何ぼあるんならというようなことを、そういう見方でぜひやってもらいたいと思うんですが、いかがですかね。

○波多野幼児教育課長 フルタイムの方につきましては、年収がおおよそ230万円前後ぐらいになるのではないかと思います。特に、4時間パートの方、6.5時間パートの方につきましては、その賃金のみの比較ということで今頭に入れておりましたが、年間幾らになるかということにつきましては、改めて私どももその考えを入れまして、ほかとの比較等をしてみたいと思います。

○尾川委員 今、230万円という認識があるということを知ってほっとしたんです。ほっとしたというんか、こんぐらいの金額じゃというのをみんな知っとなないけんのじゃけど、そういう保育士の賃金について取り沙汰されとるけど、見方でぜひただよそと同じにせにゃあ保育士の取り合いになると思うんで、そういう面を見て、あるいは教員の賃金と比較したりということもある面見方は必要だと思うんで、どういうふうにあるべきかということを考えて保育士の補充をぜ

ひ考えてほしいと思うんですが、どんなですか。

○波多野幼児教育課長 現在の待機児童対策で一番急がれるのは保育士の補充と考えております。次年度の補充もその辺のパート6.5時間、それから給与に加えて園での活動のしやすさというのも考慮に入れながら募集を図っていきたいと思います。

○掛谷委員 尾川委員の関連ですけれども、正職を見ましたら幼稚園が28名、それから保育園が61名、お聞きしたいのはフルタイムが230万円、これは役職がついているんで、一概に言えないんですけども、正職については何百万円から何百万円ぐらいの範囲の年間収入がなっているのかというのを、今のフルタイムと考え合わせてみますと知りたいところなんですけど、どんなんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 おおよそでございますが、新採用の方につきましては300万円足らずから一番筆頭であります園長、園長の中でも主幹教諭というのが2名ございまして、きっちりとした金額のほうは私のほうでは出ませんが、700万円前後であろうかなと想定しております。

○掛谷委員 ありがとうございます。

気になるのは、6.5、4時間とかというところはそれぞれの事情があって、御本人の御希望もあったりしてうまく運用されるところもあるんですけども、フルタイムの人が正職にしていこうとすることを本人が望んでいる、望んでいないというようなことをアンケートなり、そういったケースはあるんじゃないかと思うんですけど、そういうフルタイムでありやもうやめるケースも出てくるけども、正職になったらやめるといこともないのかなあと思ったりしますんで、このところのフルタイムの正職への変わっていくというか、そういうところの分微妙なんですけども、現場の今声というんか、フルタイムの声というのはどういように調査されてるんかなと思うんですけど、どうでしょうか。

○波多野幼児教育課長 まず、臨時職員につきましては、私どもの正職の試験の中で経験者枠という試験がございます。現在、30歳から50歳までで3年以上フルタイムを経験した人が受けられる試験でございますが、臨時の対象者の中でも特にフルタイムの方には園長のほうから面談をして、この試験を受けるかどうかというのは必ず聞いてもらっております。

それから、ほかの若い職員で臨時職員の方につきましては、もう一度採用試験を受ける機会というのはあると思いますので、これは正職員をもし落ちても臨時職員の募集はしますからというのを必ず試験のときに申し上げて、臨時で来られる方についてはまた次の試験を受けていただくよう努めております。

○掛谷委員 もうこれで終わりますけれども、園長が試験を受けて受かったら正職になると、若い方もそういう形があると。平成30年度も、31年度のことを言うたら語弊がありますが、これで昇格というんか、正職になった方々というのは結局どれぐらいおられるんでしょうかね。

○波多野幼児教育課長 うちの臨時職員から正規職員になった先生は1名、それから他市町村をずっと試験が残念な結果できている方がうちを受けたら通りまして1名、ですから御質問の内容

からすると臨時から正職は1名でございます。

○掛谷委員 これはどういうふうに分析されていますか。そういうふうな流れでもっとしたげるべきなんか、もう試験通らなんだらいかんということなんで、もうしょうがないんか、どういうふう担当の方たちは思っておられるのか、感想なりいろいろ聞かせてください。

○波多野幼児教育課長 なぜ試験を受けないかということにつきまして、園のほうにお聞きしたことがございます。正職員になるということについての覚悟あるいは責任の重さについて後ろ向きになる方もいらっしゃるし、6.5時間以下の方については今の時間が私の生活に合った時間というように認識されている方が多いようでございます。

○中西委員 113ページの保育・幼稚園費の2の給料、一般職給料というところでお伺いをするわけですが、資料の11ページ、特に12ページを見てみますと、保育士の数で正規職員、園長を含むという中で、園長の3級、4級が6人、保育士の1級が42と。保育士2級が5と。保育士の給料表がそんなにたくさん段階に応じてあるわけじゃないということが前提ですけども、それにしてもこの表を見る限り保育士の1級はすごく多いと。しかし、2級以降になっていくと少ないと。主任2級、3級、管理職になっていくとそれは別なんでしょうけども、1級と2級のところで多い。これは幼稚園の教諭のところを見ても同じようなところで、あと臨時とパートで補われているというような形になりますと、勤続年数のところで新しく就職の方が長く勤めてないんじゃないんかというような感じにこの表から単純に見ると思うんですが、それはいかなんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 私がここに来たのは平成29年でございますが、それ以前の10年間ほとんど保育士の新規の採用がなかったというのを聞いております。ですので、今の40代後半から50代前半の園長クラスと、それからその下の若手職員と中堅職員と言われる層の40代前半までの間はかなり採用がなかったときの空白があると聞いております。そのため、1級から主任までの間もかなりの数字のラグがあるんじゃないかなあというふうに感じております。

○中西委員 職員の採用に当たっては、年齢的なバランスも含めて、管理職になる幹部職員をつくっていくことも含めてバランスよく配置をしていくことが必要じゃないかと私は思うんです。そういう意味では、この10年なかったと、採用がなかったということを知って私もびっくりしています。ほかの職場でもそういうような採用がなかったがゆえに、逆にそのセクションを民営化せざるを得ないというようなところに至っているところもあるというふうにお伺いをするんですが、どうしてこの10年間そういった採用がなかったんでしょうか。幹部職員、あるいは保育園を運営するに当たってもそれはかけがえのない人材であったということからして、そういう人員配置がどうしてされなかったのか、採用がされなかったのか、わかる範囲でお答えいただけたらと思います。

○波多野幼児教育課長 部局のほうは、保育園は市長部局の福祉事務所、幼稚園のほうは教育委員会というふうに分かれておりましたので、統一性が図られてなかったことと、それから単独保

育園でベテランの方も多く、そうやめられる方もいなかったのではないかと推測されます。

○中西委員 最後のところの単独保育園でやめられる方がいなかったと。こども園になったということが大きな重圧になっているのでしょうか。

○波多野幼児教育課長 認定こども園になりますと、幼稚園としての生活と、それから保育園としての生活、あるいは幼稚園で勤めてらっしゃった方は当然8時半から5時15分で、子供がいる時間も14時には降園していたのが、こども園になりましたら朝の7時から晩の7時まで、延長保育も通して当然それ用の人員も必要ですし、人員がうまく配置できない場合は、朝の残業分、それから夜の残業分としてかかってまいりますので、その点が非常に人員が必要になるといったことではないかと思えます。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移りたいと思います。

次は、168から173ページで、教育費、教育総務費について質疑を希望される方、挙手願います。

○中西委員 170ページの教育総務費、事務局費のところ共済費ですかね。この最後の同款社会教育費、社会教育総務費、共済費へ6万7,355円、これについて理由をお聞かせ願いたいと思います。

○橋本委員長 暫時休憩いたします。

午前11時43分 休憩

午前11時45分 再開

○橋本委員長 引き続き委員会を再開いたします。

先ほどの質問の部分は後刻詳細についてお知らせください。

○中西委員 同じ171ページの旅費、これは昨年度から見ると費用弁償では29年度が7万円、普通旅費が14万2,000円ということで大幅に変わっているわけです。ここの不用額も含めてどうしてなのか、利用をお聞かせ願いたいと思います。

○朝倉学校教育課長 費用弁償につきましては、中学校の道徳の教科書採択に係ります選定委員、研究委員等の旅費であります。お願いした委員の方によって実費お支払いをしておりますので、減少となっております。

それから、旅費につきましては小中一貫全国サミットでありますとか、小中一貫に係る出張のほうにつきましては、小中一貫教育について備前市独自に行っていたときには出張に値するものが県費の出張の対象になりにくかった状況がございました。したがって、備前市で研究しているの、備前市の旅費を使って行っていただいていたんですが、全国的に小中一貫教育ということが言われまして、県費での出張の対象となるものがふえましたので、予算としては計上し

ておりましたが、執行が少なくなっているという状況であります。

○中西委員 171ページ、賃金、スクールバス運転員賃金で、どうしてこれが厚生市民協働課になっているのか、教育部になっていない理由についてお尋ねをさせていただきます。

○大岩教育振興課長 以前、直営の市営バスと、学校のスクールバス関係、給食運搬車関係を公共交通課で運転員の一括管理ということと、あと車、修繕、車検、全て管理事務所のほうで一括管理するというので、今もそれが引き続いて市民協働課で一括管理となっております。

○青山委員 173ページ、教育研修諸費の8節報償費の中のアドバイザー謝礼というのが114万4,000円あるんですが、どういう方に支払われたのか、何人そういう方がおられるのか、どこへ配属されているのか、教えてください。

○朝倉学校教育課長 このアドバイザー謝礼が、先ほどの放課後学習サポート事業の支援員の方であります。したがって、対象校は先ほど申し上げたとおりの対象校になります。人数につきましては、昨年度58名ということになります。

○青山委員 一般の方をお願いされていると思うんですが、こういうふうな方の選定というのはどういう基準でやられとんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 支援員でお願いしている方というのは退職教員、非常勤講師、あるいは学生のボランティア、地域の方ということになります。お願いする方につきましては、学校で探していただいている状況です。

○中西委員 当初の予算ではここは21万円の講師謝礼が上がっていました。これは講師謝礼というのはなくなったんでしょうか、それともアドバイザーの謝礼の中に含まれてしまったんでしょうか、その理由についてお聞かせ願いたいと思います。

その講師謝礼21万円が使われないことによって、不用額も多分この20万6,000円になっていると、ではないかと思うんですが。

○朝倉学校教育課長 ここにつきましては、放課後学習サポート事業の講師の支払いのみという形になっております。

○橋本委員長 何であれがなくなったのか、予算計上の段階であったものがなくなったのかという質疑なんですけど。

○朝倉学校教育課長 教員研修につきましては、謝金が発生しない文部科学省の講師をお願いしたということが1点、それからICTの研修会の講師謝礼につきましては、学校からの謝金を要する講師の依頼がありませんでしたので、その分執行しておりません。

○中西委員 その上になりますけども、教育総務費の事務局費の中での21の貸付金、173ページ、奨学金貸付金がありますが、予算と比べますとここは200万円ほど減額になっています。なるのは恐らく人数の問題かなと思うんですが、この人数は何人を予定されていて、実際には何人だったのか、お聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長 こちらの奨学金の貸し付けにつきましては、種類として第1種、第2種、

それから海外資金ということでおおむね3種類ございますけども、実績としまして継続分が昨年からの継続分が7名、それから新規で30年度から始まった方が7名となっております。予算上は、第1種、第2種をおおむね3名程度ずつ、あと海外留学につきましても一、二件程度を予定しております。そういった中で、実績に予算との差額ということになっております。

○中西委員 ここは人数と金額を少し一覧表にして教えていただけませんか。後で結構です。

○竹林社会教育課長 はい。

○尾川委員 171ページの13の委託料の中、廃棄物等処理委託料で60万7,447円が上がっていますが、この内容等教えていただきたいんですけど。

○大岩教育振興課長 低濃度のPCBの処分業務の委託料でございます。

○尾川委員 このPCB、まだ出るんですか。

○大岩教育振興課長 教育委員会の学校関係のほうは、今のところ出るということは把握をしておりません。

○尾川委員 同じことを毎回言よんじゃけど、PCBなんかの処置というのはもう当然もう行われて済んだ話のように記憶しとんですけど、どうしてこれまだ出てくるんですか。31年度はどんなんか忘れとるけど、どんなんですかね。

○大岩教育振興課長 高濃度につきましては、受け入れ施設のほうは順次予約というんですか、とれませんでしたので、繰り越してしております。期日は忘れたんですけど、処理期限がありますんで、それに合わせて処分のほうを今しているところでございます。

○尾川委員 今残ってる現状を小学校とか中学校、現状というのはまだようけ残っとんんですか。保管はそれでどういうふうにしとんんですかね。

○大岩教育振興課長 高濃度以外は残っておりません。

○尾川委員 高濃度は何ぼ残っとんんですか。

○大岩教育振興課長 日生西小学校の安定器4個、日生中学校の安定器60個でございます。

○中西委員 175ページの委託料ですけども、ここで電気保安管理委託料が当初の予算では179万1,000円、ここの理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長 契約管財課のほうで備前市内の施設を一括入札していますもんで、その関係で入札によって安価になったということでございます。

○中西委員 続きまして、その下の委託料のところでは昇降機保守管理委託料、これが当初の予算では74万6,000円、昨年度の決算が、29年度の決算が54万3,000円と、この金額について理由をお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長 昇降機、ダムウエーター、伊部、日生西、東、吉永にあるんですけども、建築基準法の改正によりまして、法的点検を義務づけられたことから、単価が1万8,360円から3万2,400円と上がっておりますので、そのことによる増額であります。

○中西委員 あわせて、この委託料自身に繰越明許が1, 160万円生じてましたので、この理由は何なのか、教えていただけたらと思います。

○大岩教育振興課長 空調設備でございます。特別教室の空調設備ということで、36教室で設計業務が650万円、施工管理業務が510万円でございます。

○掛谷委員 175ページの13節委託料のALT配置事業委託料5, 454万円、それとあわせて、中学校は2, 760万円、小・中あわせてお聞きしたいんですけども、委託先はどこでしょうか。

○朝倉学校教育課長 株式会社インタラックになります。

○掛谷委員 インタラックとの契約というのは継続をされていくもんかということと、毎年入札みたいに変わっていくもんかというようなところが気になるんですけど、それはどういうふうな形になっていますか。

○朝倉学校教育課長 毎年度プロポーザルを行いまして、業者のほうを選定しております。

○掛谷委員 プロポーザルで毎年ということ、それは学校教育において継続した方がある程度されてのほうが、毎年変わっていくんがどちらがいいかなかなか難しいんですけど、お金の問題と拝察します。そういう意味で、これプロポーザルで安く済むということが教育に果たしているかどうか、どういう観点でこういう委託をプロポーザルをやっているのか、そのポイントについて、学校教育という意味ではということが一番だと思んですよ。費用というのは二の次、三の次だと思んですよ、べらぼうに高くなければね。どういう観点でこのプロポーザルを実施して採用していくんかというところを教えてください。

○朝倉学校教育課長 小学校も中学校も、英語の授業につきましては基本的には担任あるいは英語科の教員が行うようになっています。ALTにつきましては、その補助をいただいているということになります。したがって、プロポーザルを行う段階では英語教育についてどのような見通しを持っているか、どういった提案をいただけるかというあたりを重視しながら行っております。もちろんプロポーザルをすることによって幾分安価になるというところはございますが、備前市の場合教員免許状を持ったALTの配置ということも求めておりますので、質は担保できるように十分配慮している状況であります。

○掛谷委員 契約を結ぶわけなんですけども、そのALTの自由度、学校での授業を教えるというのは当然なんですけども、学校以外でのその方のALT活用というのが可能になっているんですか。それは無理なんでしょうか。契約上はどういう形になっていますか。

○朝倉学校教育課長 毎年、そういったお話もございますので、学校教育に支障のない範囲で活動の範囲を広げていっておりますし、今後も非常に高額の予算をつけていただいておりますので、活用というところは研究して、年々研究している状況ではございます。ただ、あくまで学校での英語教育の充実というのが大前提ですので、それに影響がない範囲で今後も検討してまいっている状況です。

○橋本委員長 ちなみに、1人あたりは平均どれぐらいのお金がかかっているでしょうかね。割ってみりゃわかるんですけども、何人でこれだけとか、小学校、中学校で1人あたり。

○朝倉学校教育課長 正確なところはわかりませんが、540万円ぐらいになるのかなと思っております。

○森本委員 草刈作業等委託料が18万5,000円ほどなんですけど、これ当初予算が84万円からとってあって、毎年80万円ぐらい使われていると思うんですけど、どうしてこの30年度だけ18万円なのか、理由を教えてください。

○大岩教育振興課長 通常、片上小学校ののりのところというんですか、あれと東鶴の小学校ののりのところを委託していたんですけども、直営でうちの職員がしましたので、その残りでございます。

○守井委員 175ページの委託料、上から3行目の浄化槽維持管理委託料が296万円ということになるんですけども、これはどここの小学校が対象になっとんでしょうかね。

○大岩教育振興課長 東鶴山小学校と伊里小学校、西鶴山小学校でございます。

○守井委員 伊里も下水が入っているんじゃないかと思うんですけど、あるいは西鶴か、西鶴は農集があるじゃないですか。あそこはエリアになってないんですか。

○大岩教育振興課長 エリアになってございませんので、浄化槽を委託しております。

○橋本委員長 それでは、審議中途ですが、昼食の休憩をいたします。

午後0時08分 休憩

午後1時00分 再開

○橋本委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

質疑の対象範囲を、この際183ページの教育費、高等学校費までを対象といたします。

その間で質疑を希望される方どうぞ。

○青山委員 172、173ページの教育研修諸費、19節の負担金補助及び交付金の中の難聴言語障害教育研究協議会負担金というのがあるんですけど、どういうふうな内容であるのか、教えてください。

○朝倉学校教育課長 伊部小学校に通級指導教室がございます。通級指導の障害種別が言語障害の学級になりますので、その伊部小学校の通級指導教室が対象となっております。

○青山委員 これは伊部小学校に難聴のお子さんがおられるということでしょうか。ほかの学校はどうなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 難聴・言語障害とあるんですが、言語障害の通級指導教室になります。ことばの教室というのがありまして、備前市内では伊部小学校にしかございません。ただ、市内のほかの学校でも言語の関係で、吃音であるとか、そういった障害を持っている子供さんが他校の通級ということで通っておられます。

○尾川委員 169ページ、事務局費の報酬で教科書用図書選定委員会委員報酬で1万5,000

0円ですが、30年の回数等の活動を教えてください。

○朝倉学校教育課長 教科用図書選定委員会につきましては2回開催いたしております。報酬の支払いの対象の委員が3名おられます。そのうち1名の方が1度のみの出席でしたので、3,000円掛ける5回という形になっております。

○尾川委員 前から指摘があります教科書選定の方法について、教育長は従来の形に戻すという話を聞いた記憶があるんですけど、そのあたりはどういう動きになっとんですか。

○朝倉学校教育課長 現段階では、以前教育長が申し上げましたとおり、備前市の規模では厳しいということで協議を持ちかけている状況であります。

○尾川委員 協議の段階で、まだ結論は出てないんですか。

○朝倉学校教育課長 そのとおりであります。

○尾川委員 ICTの関係で電子教科書とかというふうな時代になって、備前市だけで選定というと偏るんじゃないかと思うんですよ。委員が多けりゃええというもんじゃねえんですけど、ある程度いろんな意見を聞きながら選定していくということが必要なんじゃないかと思うんですけど、ある程度期限を切るとか、来年度実施するとか、その辺の考えはどんなんですか。

○朝倉学校教育課長 ほかの市町の状況もかかわっておりますので、この場で今どういう状況ですというのがなかなかお伝えできない状況ではあります。委員おっしゃられたようになかなか備前市の学校の中だけで行うのは厳しいというお話をしながら協議を進めている状況ですので、また状況がわかり次第報告はさせていただこうと思っております。

○尾川委員 同じ話になるんですけど、私らどっちかというたら先生仲間で決めていきゃあええから、割かしそうこだわりなしに決まってくんなあと。要するに、先生が備前市から出たり入ったりするわけじゃから、意外と流動的な面があるから。勝手なことを言よるのはわかっとんですけど、備前市が。というのはわかっとんじゃけど、意外と固執するというか、障害というんか、こだわりがあるんかなあと思うて、意外とそういう私らの認識と違うんですけど、先生の世界でもなかなか困難な面があるんですか。

○朝倉学校教育課長 採択時期については県のほうで定めることになっておりますので、県のほうの手続等も経なければならぬということがありますので、市の考えだけでなかなか進むことができないという状況であります。

○藪内委員 173ページ、19節特色ある学校づくり補助金331万円の事業内容をお教えます。

○朝倉学校教育課長 これはふるさと学習を支援する事業であります。学校の独自の取り組みを支援いたしますので、さまざまな活動をしておるんですが、ただ近年それぞれの学校の地域の特色に応じた事業かどうかということで補助のほうを決めております。ですから、日生中でいえば海洋学習、カキの授業でありますとか、学校によったら米づくりでありますとか、伊部小でいえば備前焼の焼成でありますとか、そういった授業に対する補助をしております。

○掛谷委員 その下の市教育研究部補助金（小・中・合同）で、こういった研究活動をやっておられるのかということと、研究部以外に幾つかの部会があるんですか、その辺も含めて教えてください。

○朝倉学校教育課長 はっきりした数は覚えていないんですが、それぞれの小学校、中学校のそれぞれの教科、それから小・中合同であるものでは例えば学校管理、校長の集まり、教頭の集まり、それから学校保健、それから図書館教育等々ございます。それにつきまして、以前は備前市のほうで研究指定を当てておって、研究指定校ということで何年かに一回研究をしていただいていたんですが、校長会等々のお申し入れでこの会が立ち上がりましてのは、教職員が独自に調査研究を進めていって指導力の向上を図るということで備前市教育研究所というのが立ち上がっております。授業研究でありますとか、あるいは研修会を行いながら教職員の資質向上、それから子供への指導の還元ということで取り組んでおります。

○掛谷委員 そうしますと、学校長というよりもそれぞれいろんな部会の得意な先生が責任者というか、そういうふうなことにも変わってきてるといふふうに判断したらいいんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 小学校につきましては、校長、教頭で20名おりますので、小学校部会はほぼ管理職が部長をしながら行っておりますが、中学校は校長、教頭ということになると10人になりますので、一般の先生が部長でされているところもございます。対象としては管理職、一般の教員、養護教諭、事務職員含めて全ての教職員が対象となっております。

○尾川委員 177ページの小学校の図書費についてお伺いしたいんですけど、私全体的に教育関係の予算というのがだんだん下がってきとるように見とんですよ。小学校の教科書の予算は、令和元年度が213万円で、10万円弱は上がとんですけど、他の自治体と比べたら生徒数の問題あるけど、瀬戸内と比較したらそんなに生徒数も物すごく違わないと思うんですけど、結構予算的には差がつきつつあるんで、そのあたりの考え方はどんなんですかね。

○大岩教育振興課長 図書費の算定基準は普通交付税のクラス数、生徒数によって一応基準をしたもので配分しております。ただ、備前市の場合、図書館司書等をもう全校に配置しておりますので、そういった方とも連携しながら学校と望んでいる図書というのを今後とも聞いてまいりたいとは考えております。

○尾川委員 瀬戸内の小学校の図書費の予算とか決算を見たことがありますか。

○大岩教育振興課長 申しわけございません。見てないです。

○尾川委員 後からあげるけど、課長の答弁は耳たこできるぐれえ何遍も聞いとるけど、新しい本で読もうかと思う本を置きちゃらんと、数があるからええというもんじゃねえから。少し発想を転換してもうて、ぜひ子供とか小学校、中学校の備前市教育の町というんなら、標榜すんなら充実した形でぜひ考えて、減せえというから減していくというんじゃなしに、ぜひ頑張ってもらいたいと思うんですけど、いかがですか。

○大岩教育振興課長 そういったことも図書館司書と学校関係、こういった図書が必要なのかと

ということもお聞きしながら図書費がすぐには増額にならんかもしれんですけど、図書費の購入について考えていきたいと考えております。

○守井委員 177ページの負担金補助及び交付金の給食費補助金の2,057万円、これは小学校が対象ということですが、30年度の実績を報告いただきたいと思います。1子、2子、3子、それぞれ人数、要保護者は除くんだらうと思うんですけども、実績を報告願います。

○大岩教育振興課長 1,333人全校生徒でございます。第2子の半額補助が443人で1,157万1,550円、第3子以降全額補助が173人で900万3,036円、対象者数が合計で616人ということで、2,057万4,586円となっております。

○守井委員 1,333人から616人を引いたのが第1子ということなんですか。

○大岩教育振興課長 第1子のとり方なんですけども、例えば働いているお兄さんがいまして、親の医療保険に入っていないくて、中学校で義務教育が1人いると、その方は第1子と考えます。単純に一人っ子というわけではございません。

○守井委員 じゃから、第1子相当という感じの言い方ですりゃあ、717人が第1子相当ということではよろしいんですかということなんです。

○大岩教育振興課長 そのとおりでございます。

○守井委員 要保護の人数はこれには入っていないと思うんですけども、何人になるんですか。

○大岩教育振興課長 要保護は小学校で187人となっております。

○守井委員 それで、給食費の補助金が29年度が2,100万円ぐらいだったのが、30年度の決算では2,000万円ほどになってるんですが、これはどういう理由でしょうか。

○大岩教育振興課長 第1子のカウントが変わってきたのと、2子、3子の子供さんが減ったということでございます。

○守井委員 ということは、基本的に人数が減ってきたという解釈でよろしいんですか。

○大岩教育振興課長 要保護、準要保護の人数はそんなに変わっておりませんので、人数が減ったということで御理解いただきたいと思います。

○守井委員 給食費も29年度の途中からというような形で3年目を迎えるようなことになるんだらうと思うんですけど、今後はどういう方向へ行こうとされているんでしょうか。

○大岩教育振興課長 例えば第1子義務教育課程の給食費を全員2分の1にしましたら約5,000万円必要になります。それから、全額補助の場合は約1億円が必要となります。今、こういった感じで第2子以降半額、第3子以降全額ということになっておりますけど、今の段階ではすぐに半額であるとか、全額補助というところは考えてございません。

○守井委員 国の補助も幼稚園だかどっか職員も補助しようとかという話が出てきておるといことで、この小学校の給食費についても国が補助しようとかという流れはないんですか。

○大岩教育振興課長 そのような流れはございません。

○藪内委員 175ページ、2目教育振興費、14節使用料及び賃借料、システム利用料1,8

41万円、後の179ページに中学校でも920万円が出てきますが、パソコン、タブレットともにリース期間は終了しているので、基本的にはシステム利用料などが歳出にあらわれるんじゃないかと思われまので、ここでお伺いします。

パソコンルームのパソコンのソフトウェアはアップグレードできるのでしょうか。

○大岩教育振興課長 このたびアップグレードしております。7.1が32年1月にサポート期間が切れますので、そちらのほうに対応した形でアップグレードしております。

○藪内委員 タブレットについてはウィンドウズ8.1が令和5年1月サポート終了するのに合わせて更新するという答弁がありましたが、それでよろしいのでしょうか。

○大岩教育振興課長 35年1月にサポート期限が切れます。あと、27年1月から投入してますけど、バッテリー関係の故障も多くなっております。更新は来年度以降考えていきたいと考えております。

○藪内委員 パソコンルームのパソコンを廃止し、タブレットに一本化するという話もありましたが、どうなっていますでしょうか。

○大岩教育振興課長 パソコンルームのディスプレイは使った感じで、そのタブレットをドッキングステーションというんですけど、ドッキングさせて、キーボードはそのまま残っておりますので、キーボードを使いながらタブレットも使えるような感じでいけば、パソコン教室のパソコンはもう要らないのかなという考えではございます。

○尾川委員 関連で、来年度というか、もう今も動きよんじやと思うんじやけど、プログラム教育ということを取り上げて、備前市も最先端ぐらいいきよると思うとんじやけど、1人1台で。プログラム教育の教材についてはどんな考え方しとられるんですかな。何か先生からの要望なんかあるんですか。

○朝倉学校教育課長 先ほどの市の教育研修所の中に情報教育部会がございまして、その中で小学校の先生を中心にプログラミング教育に必要な教材について研究をいただいて、今教育委員会へ上がってきている状況ですので、今後来年度予算に向けて精査して配置していくという感じになります。

○尾川委員 そしたら、今までどおり先頭グループを走っていけるような状況なんですか。

○朝倉学校教育課長 先頭かどうかというところはよくわかりませんが、学校でプログラミング教育を行う上でよりよい教材ということで選んでいただいておりますので、現段階でいえば授業をする上ではいいものが上がってきているのかなと思います。

○尾川委員 これも教科書選定と一緒に、教材もピンキリというたらあれじゃけど、いろんな種類があって、かなり先生の好みもあるし、できるだけよう、人気機種というてもまたこれも問題があるんでしょけど、その辺の選定についても慎重に効果があるいいものを、長く使えるものを選定してもらいたいと思うんですが、いかがですか。

○朝倉学校教育課長 今、プログラミング教育に関する教材というのが非常に目玉にはなってい

ますが、今後さまざまな研究が進んできて、よりよいものが出てくる可能性もございますので、そのあたりの状況も勘案しながら教材選定とか、教材の整備というのはしていく必要があるかなとは感じております。

○中西委員 177ページ、中学校費の学校管理費、委託料のところでは電気保安管理委託料91万9,958円が計上されています。29年度の決算は79万9,000円ですから、12万円ほどふえているわけです。先ほどの執行部の答弁では小学校の電気保安管理委託料の減額は一括で入札を行っているので、安くなっているんだということでしたけども、ここは逆に高くなっているんですけど、一括することでこれは高くなるんでしょうか。

○大岩教育振興課長 29年度は学校の数で案分しているんですけども、29年度が14万8,000円掛ける5校掛ける消費税ということで79万9,200円ということです。30年度が5校で単価が17万363円掛ける5校掛ける消費税ということで、確かに増額してはおります。案分の関係だと御理解いただきたいと思います。

○中西委員 続きまして、179ページ、中学校費の学校管理費の負担金補助及び交付金のところで部活動補助金というのがありますが、これは昨年度の決算から見ますと18万円ほど減っているわけです。30年度の当初予算を見ても減っていると。恐らく人数との関係かなというように思うんですが、減りようが大きいんで、お尋ねをしたいと思います。

○朝倉学校教育課長 おっしゃられるとおり、生徒数の減によるものですが、今中学校へ在籍している学年で1学年非常に生徒数が少ない学年がございまして、大きな減になっておりますが、単価的には1人当たり2,000円ということで変えておりませんので、純粹に生徒数減によるものとお考えください。

○中西委員 生徒数によってこういう部活動費が削減されてくるわけですが、逆に言えば生徒の参加できるような部活動をふやしていく、あるいは単価も上げていくということは考えられないものなんでしょうか。

○朝倉学校教育課長 以前は1人600円で行っていたものを、2,000円ということに数年前に上げた経緯がございますので、状況に応じて予算等も考えております。今の段階では2,000円でいこうというふうには考えております。

○中西委員 教育振興費の備品購入費、図書のところですけども、これは昨年度から見ると購入費が減っているということなんですけども、私は教育委員会の中でこの図書の評価というのはどのようにされておられるのか。学校をたまに見るわけですけども、古い本が目立つわけです。本当に子供たちが読みたくなるような本をもう少し新しくそろえることができないかなと思うんですが、今の学校の図書の数はどうお考えになっておられるんでしょう。質的な問題を含めてお聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長 図書の管理につきましては、先ほど申し上げたように生徒数、クラス数によって配分しております。それで、古い本につきましては決算資料にもありますけど、蔵書の数

も廃棄処分する、あるいは新しいものを買うということで、その新しいものを買うということに対しましては、学校のほうにお任せしとるのが実情でございますので、その辺は学校に全て買うものについてはお任せしております。

○中西委員 つまりこれで十分だと、これだけの金額で毎年少しずつお金が減っているわけですが、人数が減っているから補助金も少なくなっているというようなことになるのかなと思うんですが、これで十分だというふうにお考えなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 現場のほうから図書費が足りないんだというような話は私のほうも聞いてはないんですけども、図書司書さんがおられるんで、そういったことも校長会などにはお願いしながら希望のほうは聞いてまいりたいと。あと、夏休み中には予算関係で要望を聞いてまいりますんで、そういったところでは対応しているんですが、そういった声は聞いてはおりません。

○中西委員 よくわかりました。

続きまして、教育振興費の負担金補助及び交付金、通学費補助金が昨年度から見ますと3分の1に減っているわけですが、これも対象者が減っているということなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 通学費補助金なんですけども、遠距離通学で6キロ以上の自転車通学者に21万6,035円と、あと船通学です。それから、スクールバスの人数が去年は803人生徒数がおって、75人がスクールバスを利用していました。このたびは714人の生徒のうちで72人スクールバス利用ということで、人数的にはそんなにふえてないんですけども、通学費補助の対象になる生徒さんが減ったということで補助金が減っております。

○中西委員 それにしても3分の1に減るといのはどうなんでしょう。今の御返答だけで、金額として出てくるもんなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 船の通学であるとか、定期代であるとか、自転車通6キロ以上であるとか、あと特別支援学校行かれる生徒さんにつきましては全て補助金をお出ししておりますので、単純に生徒さんが減ったということでございます。

○中西委員 その下の負担金補助及び補助金のところで給食費補助金ですけども、これ以上対象を拡大することは考えてないというふうにおっしゃるんですけども、この給食費補助金を出すことよっての教育、あるいは備前市に対する貢献とか含めた効果のほうは、教育委員会としてはどのようにお考えになっておられますでしょうか。

○大岩教育振興課長 貧困家庭への補助金ということになれば、今7人に1人であるとか、6人に1人であるとか、そういった方には準要保護、要保護で給食費は全額補助しておりますので、今している第2子以降半額であるとか、全額補助というのは子育て世代への支援ということで考えておりますので、貧困家庭の支援はもう既にしておりますので、そういったところで今の段階ではこれを拡大するであるとかということは今のところ考えておりません。

○中西委員 私は一般質問では拡大してくれということは言っていますが、きょうはそのことは言っていないんです。私が思うのは、これをやることによって保護者の負担が大変楽になっ

たという保護者の方の御意見とか、こういうことをやっているから備前市へ移住をしてきたいとか、そういった、あるいは備前市というのはそういう行政をやっているんで、子供たちは大変郷土愛が出てきたとか、そういったような教育的な効果、教育が及ぼす効果というのはどのようにお考えになっておられるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○大岩教育振興課長 補助金ですので、それで備前市にいてよかったであるとか、経済的に助かっているとかというような直接の声は私どもには届いておりません。

○中西委員 一度保護者に対するアンケート、あるいは子供さんに対するアンケートなんかもとってみられたらどうでしょうか。せっかくこれだけたくさんのお金を入れて備前市も力を入れているわけですから、そういう行政の効果も図ってみるのも一つではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○大岩教育振興課長 給食費の補助があつてよかったですね、その二者択一のようなアンケートはそんなにとれないと思うんですけど、今市民意識調査で小・中学校の充実であるだとかというのはかなり高いところの順位にはありますんで、そういったところには個別記入で書いていただければと思うんですけど、特に給食費の補助がある、なしでのアンケートは考えておりません。

○守井委員 今のところで中学校の分のこの1子、2子、3子の補助金の内訳と人数を教えてくださいませんか。

○大岩教育振興課長 中学校全生徒714人のうち第2子半額補助が257人、金額が717万9,177円、第3子以降全額補助が52人、294万483円、合計で309人ということで1,012万3,660円となっております。

○守井委員 反対に、給食費が集まったところがこの予算の中に入らないんですけど、これは別のところで徴収しているんじゃないかと思うんですけど、それはどんなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 学校給食費のほうは、学校のほうで学校徴収金ということで預かっております。備前市の場合、まだ公会計になっておりませんので、学校のほうで一旦集めていただいて、その後補助金という形でお出ししているのが実情でございます。

○守井委員 徴収のほうはもう完璧に全部できておるんですか。関係ないやあ関係ないかわかりませんが、学校の先生が集める仕事をやられているのか、それとも保護者会がやっているのか、その辺はどんなのかもあわせて報告願えますか。

○大岩教育振興課長 今のところ、未収金があることはございません。全額納めていただいております。

○青山委員 179ページ、20節の扶助費の要保護・準要保護生徒就学援助費なんですが、それぞれ要保護、準要保護というのはどういうふうな条件なのかということと、何人がこの対象になっているのか教えてください。

○大岩教育振興課長 条件は、国の生活保護の基準がありまして、家庭の人数構成であるとかに1.25倍所得換算したもので、下回れば準要保護ということで、所得で判定しております。

それから、人数的には103人おられまして、そのうち要保護が2人でございます。

○掛谷委員 今の関連で、参考資料9ページに小学校、中学校ございます。29年、30年度、若干プラス。この傾向というのは5年、例えば平成27年ぐらいから比べるとととんとふえていっていると。今後の見通しについてもふえるのかなあと思ったりしますが、このあたりのところをどのように考えておられるのか。

○大岩教育振興課長 準要保護の方の人数につきましては、年々若干右肩上がりになっているという認識ではございます。所得が出る6月の判定時期で申請していただきまして、先ほど言いましたように所得判定に基づいて認められる方につきましては学用品であるとか、修学旅行費であるとか、給食費であるとか補助しておりますし、今後若干右肩上がりでは上がっていくのではないかなという考えではあります。

○掛谷委員 わずかな右肩上がりなんで、心配はしてないんですけど、今よくマスコミなんかを取り上げるのは貧困ということ、格差とか貧困とか、特に貧困家庭がふえているというようなことが言われてますんで、これは国の基準なんで、特段それはどうということではないとは思いますが、それによる変な話、いじめとか不登校とか、そういうところには関連が。違う話になるんですけども、そういう保護を受けること自体に子供たちは何か学校での影響というのはあるものですか。そういったことがわかれば教えてほしいんですけども。

○朝倉学校教育課長 今御心配いただいたような案件につきましては、こちらのほうでは把握しておりませんので、ないものと思っております。

○掛谷委員 なければいいですよ、それはもちろんないほうがいいの決まっているので。ただ、そういうふうなことが私は何件かあるのではなかろうかなと思ったりして心配しているので、そういうところもあわせてしっかりと教育委員会としてそういうことが本当はないのかどうかということも今後は課題として受けとめていただきたいと思いますと思いますが、どんなものでしょうか。

○朝倉学校教育課長 いじめ等は丁寧に把握に努めていく必要はあるかなと思っております。ただ、要保護との兼ね合いというようなあたりはなかなかこちらのほうでも把握しにくいところかと思いますが、いじめ自体起こらないようにということで、委員言われましたように丁寧に把握し、指導していこうと思っております。

○掛谷委員 181ページ、一番下の19節の負担金補助及び交付金で、片上高等学校になるんですが、夜食の補助が91万7,000円ほどございます。この平成30年度は何人が対象となっているのか、どんな夜食を出しているのか、補助なんですけども、生徒の声はどういったものがあるのか、あわせてお聞かせいただきたいと思えます。

○大岩教育振興課長 夜食費の内容でございますけども、週2回パンと牛乳ということで150円のを補助しております。それから、週2回弁当ということで500円相当の弁当を補助しております。ただ、生徒数が31人ぐらいおられるんですけども、実際に食べられる生徒さんは

そのうちの大体20人ちょっとぐらいが夜食を食べられております。家から直接通われる子は食べてこられる方もおられますし、そういったところで二十数名が食べているということでございます。

○守井委員 対象者が、全員で31人とお聞きしたんですけど、授業料のほうも31人というような報告があったんですけど、各学年にしたら都合によったら七、八人ぐらいの学年があるということになってくるんじゃないかなあというような感じがするんですけど、学年ごとの人数というのはどうなってますか。

○大岩教育振興課長 30年度が1年生が6名、2年生が7名、3年生が11名、4年生が7名となっており、合計31名でございます。

○守井委員 それで、教育部長、以前片上高等学校の活性化というような形でいろんな議論をやられたと思うんです。そういう中で今聞いたら学年数の4で割ったら7人か8人という感じじゃないですか。いろんなこと考えていってあげないと、なかなか学校自体の運営も難しいなって非常に思うんですよ。その点は何かどんな考え方今やっているのか、その辺報告願えますか。

○田原教育部長 昨年度、片上高校の魅力化ということで活性化委員会を立ち上げて協議してまいりました。その中で、学校のPRのパンフレットをつくるなど、また今年度からの新しい片上高校のあり方について議論を深めてまいりました。今年度以降のテーマとしては働きながら学ぶ就労に向けた力の育成と地域との連携、人間関係づくりの育成ということで2本柱でやっております。そういった中で、企業等との連携であるとか、地域とのかかわりを大切にして、今まさに取り組んでいるところでございます。

具体的に申しますと、今後片上高校の中でも先般行われた社会教育で取り組んだだっぴのような事業などに取り組んでいく、学校自体がそういったところに積極的にかかわっていくというような形で子供たちの成長に向けて努力をしておるところでございます。そういった声が内外に響いて活性化、生徒数の増加につながっていけばと思っております。徐々にではありますが、希望者、そういったものも昨年度よりはふえておりましたので、来年度も積極的にPRを行ってまいりたいと考えております。

○守井委員 事業計画を進めていく上で、単年度だけでなく3カ年計画ぐらいな計画を持ってホップ・ステップ・ジャンプみたいな形のを計画して、それが済むとまた見直してやるというような形のを考えていかなくはないんじゃないかと思うんですよ。その点も含めて御意見ございましたらお願いしたいと思います。

○田原教育部長 具体的に言えば、活性化計画の中で年次的に取り組んでいくということで計画をしておりますので、それに基づいて関係者等連絡を密にして取り組んでいきたいと思っております。

○守井委員 成果の上がるように頑張ってくださいというふうに思います。

○尾川委員 今、夜食補助金に関連して、週2回パンと牛乳、それから週2回弁当、これがずっと継続されとると思うんですけど、こういう表現して適切じゃないですけど、弁当のときは授業

に出る人が多いとか、出席が多いとか、そういうふうな何かこの辺の工夫は考えてないんですか。例えばもう今度は弁当ばかりにしますよとか、従来どおり2回ずつそのまま継続するというような考え方なんですか。

○大岩教育振興課長 弁当とパンで相関関係はわかりませんが、大体二十数名の方がパンも弁当も食べておられます。最初は5日の弁当も考えたんですけども、学校さんのほうも学校の管理上、弁当が5日よりパンと牛乳のほうがいいということでお聞きしまして、今はパン3回、弁当2回となっております。

○尾川委員 学校には聞いとるというんじゃけど、生徒から聞いとんかな、そりゃ。その辺はどんな。一遍調べて生徒の意見を聞いて、弁当にするという意味じゃないんですよ。じゃけど、せっかくじゃったらもっと充実して、出席してもらうようにと、途中で退学せんように何とかしてもらいてえと思うんですけど、どんなんですかな。

○大岩教育振興課長 生徒さんの意見のほうもお聞きします。

○掛谷委員 関連で、たしか備前市内の人は少ない。31名の内訳を教えてくださいということ、岡山市を中心にした中枢連携都市構想というのがございます。よく言われるのは備前市がつくった市立の片上高校ですから、費用はほとんど備前市が出していると。そういう意味で、これは岡山市のほうから来られるとか、瀬戸内とか赤磐、和気含めて、それは教えてもうたらわかるんで、そういうものに要望していっても、それは真庭とか津山というたら関係ねえというて言われるんじゃけど、そういうふうなところも唯一岡山市以外であるわけなんで、そういうところにも要望されてもいいんじゃないかという話が出てきてるんで、その辺のところの2点をお伺いします。どこから来ているのかというようなところ含めて。

○大岩教育振興課長 ことしの資料で申しわけないんですけど、ことし1年生が11名入られまして、35名と今となっております。内訳でございますけども、備前が3名、日生が3名、吉永1名、これで備前市出身が6名になります。あとは多いところでいえば上南3名、西大寺が7名、長船が2名、邑久が1名ということで、割に赤穂線沿いの方が多いというような印象でございます。和気が2名となっております。

備前市立でございますので、最初は勤労青年の働きながら学ぶということで市立片上高校がありましたんですけども、今は受け皿的なところもございまして、そういったところの生徒数の減少などを踏まえまして、昨年度、片上高校の魅力化検討委員会を立ち上げまして、何とか生徒数の増加に取り組んでいるところでございます。

教育内容のほうも、このたび4月からカリキュラムの見直しをしておりますし、そういった関係もございまして、入学生がことしは11名とふえております。これは合格者の数でありますので、実際には受験の申込者のほうはまだ多かったということでもありますので、内外に対して片上高校のよさをこれからもアピールしていきたいとは考えております。

○掛谷委員 それはありがたいんですけど、私の言うのは運営費の費用の部分で岡山であると

か、瀬戸内からも来ているわけなので、そういった中枢連携都市構想の中で今言う県北は関係ないといえども、ほかの都市からも受け入れをしているんだから、少しはそういうふうなお金を取ってくることはできないか、お話をしたことがあるんかというようなことを私は聞きよんですけど。

○大岩教育振興課長 片上高校に通われてる他市町のから負担金ということはお話ししたことはございません。あと、高等学校の先生につきましては夜間の定時制ということで、県費の先生が来られております。非常勤とかは市費で払っていますけども、教師の人件費は県費の先生ということで、備前市のほうは後のフォローをしているだけの話なんですけど、他市町村にはお金を出してほしいというようなお願いはしておりません。

○掛谷委員 これは意見として。他市町村に出してくれというんじゃなくて、岡山市を中心に中枢連携都市構想の中にこの片上高校の位置づけをして、それに運営補助金とか、そういう学校の先生の派遣はわかっていますけど、要望なり、そういうことを上げていかないとそういうことは一切ありませんから、どうでしょうか。それが違う話やと、それは関係ない話やと言われたらもうそうですけど、話を出してみることもいいんじゃないかなあと思ったりするんですけども、どうでしょうか。頑張っってそういうふうなことを言っていただくようなことができますか。

○田原教育部長 岡山連携中枢都市構想の関係でというお話でありますけども、岡山市にも夜間定時制といったものもあると思います。そういったところでどうなのかと。その点については研究をさせていただきたいと思います。

○掛谷委員 ぜひ研究してください。というんが、多いですから、岡山市なんかもうほとんどなんで、これ片上高校は他市から来てる生徒が多いんだから、それだからそうやって言われるわけで、意見ですけど、これから頑張っってみてください。

終わります。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

182ページから199ページまでの教育費、社会教育費、保健体育費ほかでございます。

この範囲で質疑を希望される方。

○掛谷委員 184、185ページ、2目の公民館費の中の1節の、1節と7節に関係します。

まず、1節の報酬、地区公民館長の報酬が425万8,800円、それから関連の7節の賃金で地区公民館の主事の賃金、これが1,474万円、4倍近く差があるわけです。公民館長というのは基本的には午前、主事というのは1日いるというふうな流れですけども、これに対して地区公民館長というのが午前中で帰るときもあるけど、結構ボランティアでやってるようなところもあるんですよ。ですから、地区公民館長の報酬というのは1日制にするような声はないのか、もうボランティアというの相当あると思うんですよ。主事は1日おるんで、これは7地区と思っ

ております。その辺の地区公民館長の報酬について、その半日制度というものがそれで本当にいいのかどうか、公民館長の声、それから住民の声、そういったものをあわせて主事と館長のところをどのように考えているのか。平成30年度でどのような声があるのか、教えていただきたいと思ひます。

○竹林社会教育課長 先ほど言われました報酬の地区公民館長報酬につきましては、各地区の公民館の館長さんのうち3名分がここへ報酬として上がっています。

先ほど言われた賃金のほうへ、賃金でお支払いしている館長さん5人分、こちらがこの内訳で960万円程度上がっております。そのほかにつきましては、通常の臨時さんの賃金ということになっております。

先ほど言われた館長さんの勤務なんですけども、各公民館でまちまちなところもございます。今までの流れ、経緯の中でそういった勤務形態になっているかと思うんですけども、いろいろ公務で出たりというところもありますんで、それぞれの実情に応じて変更できるところは変更も必要かと思うんですけど、来年からこちらの館長さんにつきましては会計年度任用職員ということで移行になる予定ですので、その辺である程度統一していけたらなというふうには考えております。

○掛谷委員 公民館長になられる方の声をしっかり聞きながら、それは午前中で終わるんだったら昼からは1時間当たりの賃金を支払うとか、そういうふうなことも考えてあげて、実質的にボランティアというのはおかしいと思うんで、何でもかんでもそれは上げていきゃあええというもんじゃないんですが、きちんとした報酬に上げるべきだという意見を持っております。自分から上げてくれとは言いにくいですよ。だから、そういう意味で実情をしっかりとくみ上げてやっていただければいいかなあと思っていますので、よく声を聞いてあげていただきたいなと思っています。その辺のところ、部長、今後どうされるのか、教えていただきたい。

○田原教育部長 地区地区で公民館の成り立ち、そういったものが違ってきていると思ひます。そういったところを統一的な見解でどういうふうにできるのかといったことも含めて、皆さんの意見も聞きながら進めていきたいと思ひます。

○尾川委員 関連で、今説明があった地区公民館長報酬は3名分ですわね。それから、臨時雇い賃金5人分という、これでええんですか、1,600万円。

せえで、単価が大分違うような気がするんですけど、その辺矛盾はねえんかな。どういうふうな処遇というか、採用方針になつとんか、臨時雇いと公民館長報酬との区分けというか、区分はどうなつとんですか。

○竹林社会教育課長 勤務時間等、それから館長さんの年齢的なこともございまして、そちらの関係でこういった報酬と賃金という別扱いということにはなっております。

単価的には館長さんの報酬につきましては11万8,000円程度となっております。また、臨時の賃金につきましては時間によって若干変動があるかと思うんですけども、ほぼ同額程度に

なっとなんではないかなと考えております。

○尾川委員 掛谷さんとはまた違う意見なんじゃけど、私ら館長のほうが半日とか、主事が1日おるとか、それは矛盾じゃねえといやあ矛盾じゃないんかかもしれんけど、どうも私らの感覚からいうたら責任者の館長が半日で主事が1日おるといふ、そういうふうな勤務体制というのはどうも疑問に思うんです。その辺は長いことやってきとんですけど、執行部とすりゃあ矛盾を感じてないんですかね。

○竹林社会教育課長 公民館さんともいろいろな会議の場でもそういったお話はありますが、館長さんにつきましてはいろんな出勤をせざるを得ない時間帯等については今振りかえ等で対応していただいているというところもございませうけど、来年は先ほども申しましたようにある程度統一した扱いにできたらなというふうには考えております。主事さんについては1日ほばいていただくというような格好はこれからも変更はないかと考えています。

○尾川委員 採用条件というか、年齢とか経験とかいろいろあると思うんですけど、その辺の矛盾みたいな感じがするんですけど、それも含めてぜひ善処してほしいと思うんですけど。

○橋本委員長 要望ということで。

ほかにございますか。

○守井委員 183ページの報償費、社会教育費、社会教育総務費の報償費の成人式記念品なんですけども、年によって金額が変わっていますが、対象人員はほぼ変わらないと思うんです。年によって変えないほうがいいんじゃないかと思うんですけど、何か事情によって昨年が&るのか。29年度が15万5,000円ほどで、30年度は27万9,000円ですが、どういった理由だったんですか。

○竹林社会教育課長 人数的には恐らく若干減少してきている状況かとは思いますが、そういった中で記念品として何がいいかというような中で、昨年は単価900円のものを用意したということです。恐らく前年より単価が上がっているんじゃないかなと考えております。

○守井委員 ほな、実行委員の希望によっても変えるということで、単価的なものは別に気にせずにとというようなことでやられたということですか。

○竹林社会教育課長 この記念品につきましては、昨年決定して、変更したかと思うんですけども、これを3年間程度続ける予定には今のところしております。

○中西委員 185ページ、社会教育費、社会教育総務費、委託料で備前まなび塾委託料というのがあります。これは昨年度の決算では410万5,000円と。今回、少し減ってきてますんで、参加者が少なくなってきたのかなというふうには思うんですが、理由はいかがなものでしょうか。

○竹林社会教育課長 こちらにつきましては、市内の10地区の地区公民館中心でまなび塾をやっていたいておりますけども、人数的に減少傾向というのは聞いております。30年度の生徒数でいきますと178名となっております。

○中西委員 人数が減っている理由は何なんでしょうか。そして、同時にここはせっかくやって、それなりに一つのおもしろい政策だとは思いますが、どうやったらふえるのか、そのやり方自身に問題があるのか、どうやったらふやしていくことができるのか、そういう手だては打っておられるのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

○竹林社会教育課長 こちらの開始に当たっては、市内の小・中学校へも年度初めにいろいろと周知も行うようにはしてますんで、引き続きPRに努めていけたらと思っております。

○中西委員 生徒数が減っているといえば減っているのかもわかりませんが、ここはそういう生徒数の減ではなくて、どうしてこう参加者が少なくなっているのか、それはどうなんでしょうか。

○竹林社会教育課長 実施日が基本的には土曜日の午前中なんですけども、子供さんそれぞれ習い事、スポーツ少年団とか、そういった活動へも参加されるところで、その辺が減少に影響しているのかなというふうには思っております。

○中西委員 最後にお尋ねしますが、この備前まなび塾というのは余り魅力がないんでしょうか。そこのあたりは行っている先生方あるいは生徒さんを含めて何か調査なり御意見を伺ったことがあるんでしょうか。

○竹林社会教育課長 具体的には私は聞いておりませんが、現場の支援者の方等の意見もこれから聞いて、そういった施策に反映できればと考えております。

○中西委員 続きまして、187ページの13節委託料のところ、施設清掃委託料、これが昨年度に比べますと大体20万円ふえていると。これはこの公民館の面積がふえたためなのかどうか、この理由についてお尋ねをしたいと思います。

○竹林社会教育課長 基本的には備前、日生、吉永の3館の清掃業務になります。範囲としてはふえたということは聞いてはないんですけども、業務内容あたりが要因じゃないかなとは思われます。

○中西委員 面積はほぼ変わらないところで20万円ふえるというのはそれなりの理由があるんだと思うんです。

○橋本委員長 会議中途ですけど、暫時休憩いたします。

午後2時10分 休憩

午後2時18分 再開

○橋本委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○竹林社会教育課長 備前の市民センター分が増ということなんですけども、業務内容としては変更はないということなんですけども、業者さんの入札で行っておりますけども、その結果増となったということで、恐らく業者さんの賃金分に相当する部分で増があったんじゃないかなということで、入札結果ということで増額ということでございます。

○中西委員 入札は公正に行われたんでしょうけども、前年度と同額で来るのが一般的なんじゃ

ないかなと思うんですけども。

○**竹林社会教育課長** こちら清掃委託料ですので、清掃の作業員さんの賃金というところが大きなものじゃないかなと思われま。そのあたりで最低賃金とか、そのあたりの変動の関係でこういう結果になっているというふうに考えております。

○**藪内委員** 同じく187ページの13節委託料、測量調査設計等委託料443万7,720円、これはどこの測量調査をされたんでしょうか。

○**竹林社会教育課長** こちらにつきましては3件ございます。

まず、1件目が市民センターの雨漏り調査の委託料、88万5,600円、それから三石公民館の建てかえの検討業務委託、96万120円、あと一件が日生の南公民館、頭島南にございますが耐震診断の業務委託、259万2,000円の3件となっております。

○**藪内委員** 三石公民館の一体化についてですが、以前お話しありましたが、その後はどのような様子でしょうか。

○**竹林社会教育課長** 昨年の業務委託を受けまして、本年度、実施設計を実施中です。来年度の建設に向けて今、実施設計に取り組んでおります。

○**掛谷委員** 同じところで下から3段目、施設設備総合管理委託料859万6,800円、これはどこに委託をされて、どういうふうな管理をされているのか、お知らせください。

○**竹林社会教育課長** こちらにつきましては、委託先が株式会社日建さんというところになります。こちらのほうで、備前、日生、吉永3館を合わせてこの金額となっております。

○**掛谷委員** これは1年ごとの入札ですね。そこをちょっともう少し教えてください。

○**竹林社会教育課長** こちらにつきましては、入札で業者を決定しております。

○**掛谷委員** 1年単位ですね。

○**竹林社会教育課長** 1年単位でございます。

○**中西委員** 191ページ、文化財保護費の中で公有財産購入費、これは何を買われたんでしょうか。残は入札なりの残金になるんでしょうか。

○**横山文化振興課長** これは歳入のところでも触れましたけども、伊部南大窯指定地内の30年の追加指定に係るものを4筆、面積3,092平米の土地について不動産鑑定を行った後、公有地化を行い、一連の窯跡群としての保護を図ったものでございます。

○**掛谷委員** 189ページ、図書館費、18節備品購入費の図書について、975万4,577円、これは別冊の参考資料17ページに出ておりまして、全館のところのCDも含めてこういうふうにあります。お聞きしたいのは、この内訳が備前、日生、吉永、BMとありますが、これは標準、何冊を購入するかというのは、逆に言いましたら古いのを廃却して新しいものを入れるという考え方で、標準冊数というのがこの購入で間に合っているのかどうかというのをまずお聞きしたいと思います。

○**竹林社会教育課長** こちらの図書の購入費につきましては、そちらの一覧にありますように購

入が6, 375冊ということで、これに対しまして一部その年度に廃棄といいますか、除却等もございまして、増分としては若干これから減ってきた格好にはなっております。蔵書数でいきますと、大体30年度でこれだけ購入した結果、5, 200冊程度蔵書数としてはふえているということになっております。

○掛谷委員 備前、日生、吉永、BMを入れて6, 375冊を購入されてるんですね。問題は、例えば瀬戸内市とか赤磐市とか、特に瀬戸内市なんかと比べて同じような人口構成、浅口市であるとか、そういうところと比べて遜色はないかどうかということをお尋ねしたいところがあるんですけど、その辺のところ調べておられますでしょうか。

備前はそういう意味では十分他市町とも、和気なんかも、和気町を調べてみましたら12万2, 495冊も実際あるんですよ。ほいで、だから全体のことをとというか、購入を含めて全体の蔵書、蔵書も左側の16ページにもありますけども、全体の蔵書なんかも含めて備前市というのは十分なのかどうかというのは疑問に思うんですよ。和気町でも12万2, 500冊ぐらい蔵書があるんですよ。その辺をどういうふうに、備前市、ほかの自治体と比べて遜色ないのかどうか。調べたことがございますか。

○竹林社会教育課長 近隣の自治体さんですけども、新しく施設がなった瀬戸内市さんにつきましては蔵書数は恐らく20万冊程度あるかと思えます。それから、赤磐市さんについてもかなり施設も広いということで、20万を超える蔵書数ということはこちらでも一応把握はしております。そうした中で、うちの施設につきまして、スペース的な限界ということもございますけど、今は十二、三万冊程度で推移しているというところがございます。

○掛谷委員 わかりました。新図書館の建設というのが今課題になって、本年ぐらいにはある程度の形になって見えてくるんかと思えますが、新しい図書館建設が決まるや決まらんや、どれだけの大きさかわからん中ではなかなか難しいんですが、新しい図書館が仮にできるんだったら、古いのをもう全部廃却するなりなんなりして、新しい図書館にはそれだけのかなりの新冊というか、新図書というのが入ってくる可能性は大と思うんですよ。そういうところを来年度図書館建設の中にきちんと図書というところの予算というのにも必要になってくるんじゃないかと。今聞いたら、備前市は劣っていると、少ないと思うんですよ。そんなところでこの平成30年度から次への段階、来年度にどう生かしていくのか、その辺を図書館建設というハードの面もそうですけど、図書というソフト面はどう考えていこうとしているのか、そこの辺のところを見通しをお聞かせいただきたいと思えます。

○竹林社会教育課長 蔵書数などのソフト面につきましても、今検討しております中、備前市の規模、人口規模等も踏まえてどれぐらいが適正な規模かというあたりもその中で検討はしていく予定としております。

○掛谷委員 瀬戸内市なんかは、新しい図書館建設をしたときに子ども読書活動推進計画という子供を対象にした推進計画であるとか、スタートをするときにいろんなアイデアを出してやって

います。ですから、図書館建設がスタートするときにはいろんな形でしっかりと考えていただいて、スタートできることが望ましいと思っておりますので、もうすぐどうなるんかが決まりそうでありますので、その辺のところをよろしくお願ひしたいと思ひます。

これはもう要望で終わります。

○尾川委員 図書館関係で、部長にお聞きしたいんですけど、まず建設のこともアンケートをとったりして進んだらいいんですけど、まず現状について図書館館長が任命、名前はあっても、実際活動しとるように部長は捉えられとんのですかね。まず、それをお聞きしたいんですけど。

○田原教育部長 今現在、館長というのが職員が兼務のような形で実際しております。それについて、単独の館長を置くべきではというような御意見かと思ひますが、現在のところ今の規模において実情兼務で行っているというような形でございます。そういったことも図書館整備の充実に向けてどういった体制が最もふさわしいのか、求められるのか、そういったことも今後検討してまいりたいと思ひしております。

○尾川委員 隣の町の図書館の絡みで、結構充実した内容にしたらいろんな予算がかかるというのは私は当たり前じゃあというて言うたんですよ。だから、今日生にある、吉永にもある、それで備前の市民センターもあって、それをコントロールする人がおらんかおらんかというのを疑問に思ひますよ。専従がええというんじゃねえんですけど、それだけの業務ができる体制をつくらんと、現状でさえ今が全くうまくいかんようなものを、建物つくったからというてきちっとした図書館運営ができるかというたら、また別の話で、その辺も考えた形で組織体制を考えたり、あるいは質問したけど、司書も本当に今司書おるんですかというて返事もなかったんじゃけど、こっちもわかつたけども。現状、本当に図書館の司書がおらんようなことを、保育士が足らんというぐらいじゃから司書も当然採用したって司書の資格持った者は応募してもらえんというようなことがあるんなら養成せえというふうな話もしたわけですし、だからそういう体制を、ある面今予算も例えば瀬戸内の図書費ははっきり言うて2,000万円ぐらいです。この間も言うたように雑誌が何十冊と何百種類というふうな違いがあるのを徐々に近づけていくか、あるいは図書館とはどういうもんかというものを一つのものをつくって組織体制はこうじゃと、本はこうだというふうなものを並行してやらんと、アンケート聞いてどうじゃこうじゃというたって、もうここまで来たら市としてちゃんとした図書館像というものを示すべきじゃと思ひますが。

○田原教育部長 箱ができて中身がそろってなかったら何もならないという御意見ごもつともだと思ひます。そういった中で、職員の研修体制とか、司書の研修、そういったところで充実を図りながら、今後そういった理想の備前市に合った図書館像について研究、検討してまいりたいと思ひています。

○尾川委員 要するに、市長にはもう金がかかると覚悟してよろ。予算今からつけて、司書も

こういう司書になってほしいとか、養成していくとかという考えでもって図書館の話するんならそういうふうにしていかんと、建物はできた、できたというか、今でもどこへあるんか、どこへ行っとなかわからんようになってるような感じが私はしとって、だからその辺を並行して内部的に用意していかんやいけんことはちゃんとやってほしいと思うんですけど、そんなことが問題かなあというふうには。

ただ、外面的に見て建物があって、司書もあれだけおって費用がかかるというのはわかって、それでも今の備前市の図書館の状況で書架がねえ言うけえ、廊下でも置きゃあええと思うよ、私は。持って帰るやつがおるかもしれん。そんなもん相手にせんでもええと思うんじゃけど、置いていきゃあええと思うんです。じゃから、そういう考え方できちっとしたもう備前市の図書館像というのをはっきり明確にして、人は何人要る、館長は各館をコントロールできるだけの人物がおって、実際運用していくということをせんと、何でもかんでも兼務で名前だけ与えて、そら出るところ出たらふうが悪い、恥かきよんじゃねえかと思うん、館長じゃというて出たってね。そんなことのねえように上からちゃんと体制をつくって費用を認めていくようにせんと前へ行かんと思いますけえなあ。意見を発言してもらいたいんですけど。

○田原教育部長 おっしゃるとおり、管理体制、そういったところを含めて充実に努めていきたいと考えてます。

○石原委員 同じく図書館費のところなんですけれども、毎年いただく事業報告を拝見しまして、ここ数年見比べてみますと限られた厳しいスペースというんですか、限られた中でもろもろ講座であったり、イベントであったりを頑張られてか、ここ3年ほど少しずつ少しずつ貸出冊数も着実にふえとんかなあ。その中で、本当にちっちゃな動きなんですけれども、わかれば結構なんですけれども、吉永の分館、こちら限られた1万5,000冊ほどの蔵書の中で、ここ4年ほどですか、平成27年度から30年度にかけて貸出冊数が1.5倍ほどに、この伸びはかなり目にとまったんですけれども、何かここにも図書館運営のヒントがあるのかなあと思うて拝見したんですが、執行部としてここではもう特にですけど、吉永頑張つとられるんかなあ。何かこの点について評価であったり、今後に向けてのヒントを捉えられたりというんがあればお教えいただければと思うんですけども。

○竹林社会教育課長 吉永の図書館、分館につきましては、数年前、何年前だったか、場所を変更しまして、以前わかりづらい場所にあったかと思うんですけども、今は地域公民館の一番支所側といいますか、前年に移動をしまして、かなり場所的に皆さん利用しやすい場所になったというところで利用者数等もふえているという状況でございます。

○石原委員 大変難しい事業だと思います。もう何が正解か、箱にしても、中身にしても、どの規模が適正かという明確な答えもないでしょうし、そのあたりもしっかり、今場所というようなお話もありましたんで、どこにあるんかわからんというような市民の方も大勢おられるかと思うんで。

それから、せっかく頑張っておられるんで、これ備前市のどの施設にも共通することかと思うんですが、市民に向けてPRを。本当、ささやかだとは思いますが、こっだけ利用もふやす努力もしています、頑張ってますであつたりというPRがありとあらゆる関係の部署に不足しとんじやないかなあと。大いにこの図書館、公民館についても同様だと思いますんで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、190ページの文化施設費に関連してなんですが、ここでも施策評価シートの中で施策の有効性、評価のところなんですけれども、今後に向けて文化施設が点在しており、施設の老朽化も進んでおつて、機能統合を行うことなどにより集約を図っていく必要がありますという方向性が示されておるんですけれども、今後の文化施設のあり方について、どのように進めていくのか。ほかの公共施設再配置計画等でもうひっくるめて考えていくのか、どういう方向性になるのか、今現時点でのところでお聞かせいただければと思ひますが。

○横山文化振興課長 こちらにつきましては、厚生文教委員会の中でも御質問があつたりしておりますけれども、公共施設のマネジメント計画の中で今検討中でございます。備前焼ミュージアム等につきましては、3年後には国道2号の緊急輸送道路に面している施設ということで、どういった方向性か、ある程度示していかなければいけないなというようなことで、2年をめどぐらいに方向性が示せたらというふうに考えております。

○石原委員 文化施設についても備前焼ミュージアムでは先ほどおっしゃった現在企画展等も開催されて頑張っておられたりなんですけど、今は市が所有して運営されとるわけですから、文化施設についてももっともっとPR、もう何かずるずると惰性で、あるから人を置いたり、最低限の運営を続けておるようなイメージで見受けられるんで、せっかく運営をしとんなら、もっともっとある限りは強い気持ちを持ってもう取り組んでいく、ミュージアムに限らず。その点はもう強く要望したいと思ひます。

それから、192ページの青少年対策費で、こちらも施策評価シートからなんですが、青少年育成センターへの相談件数が28年度が94件、29年度が142件、それから30年度が185件ということで、ぱつと見市内の青少年落ちついとんかなというイメージあるんですけど、件数だけはかなり顕著な形で伸びてきておるということで、このあたりはどのような状況なのか、捉えとるところでそれだけ活発にというか、青少年健全育成センターですか、活動されとんかというところで捉えをお聞かせいただければと思ひますが。

○竹林社会教育課長 青少年育成センターにつきましては、4名の指導員の方に週ローテーションを組んでいただいて相談業務等に当たっていただいております。そういう中で、特に大きな問題ということは最近耳にはしていませんけれども、細々としたそういった相談件数というのはこれだけの件数があるというところは注意深く見守つて、巡回活動等もやっていけたらというふうに考えております。

○石原委員 197ページ、7項保健体育費の1目保健体育総務費、19節負担金補助及び交付

金の中で、市の体育協会への補助金130万円なんですけれども、こちら僕も以前一般質問の場でしたか、もう本当ここ何年も、5年どころじゃない形でこの一定の金額が続いておるといところ、それから同規模他自治体、近隣の自治体等とも比較しても、金額でいうとかなり低い、抑えられた金額でずうっとここ数年推移しとんですけれども、体育協会との市のかかわり方であったり、各近隣同規模自治体の体育協会さんの運営のあり方であったりといところを何か研究していきますみたいな御答弁をいただいたことがあるんですけれども、何かその後体育協会とのかかわり方、市としての体育へのかかわり方であったりといところで御検討が進んどんであればお聞かせいただければと思うんですけれども。

○竹林社会教育課長 体育協会補助金につきまして、事務局はこちらの社会教育課のほうで担っているといところ、近隣でそういった団体さんの中で事務局のほうも担っていただいているようなところもあるのかなと思うんですが、日生、吉永の支部も含めてそういった団体さんが担うことが可能かどうかというあたりも今後お話ししていきながら、有効な方法があれば取り組んでいきたいというふうには考えております。

○石原委員 これも果たして何が正解かわからんわけなんですけれども、何か事あるごとに市当局がイベントなんかにもしっかり最前線にかかわっておられる姿を見ておるんですけれども、市体育協会のあり方というか、市としてどういう形でスポーツを、体育を支援していくべきなのかということは今後も引き続きしっかり御検討いただいてということ、これもまた要望させていただきます。よろしくをお願いします。

○藪内委員 197ページ、13節委託料、一番下の体育施設指定管理料約1億2,000万円、26年から29年は確認したんですが、30年度の内訳をお伺いしたいのですが。

○竹林社会教育課長 久々井の総合運動公園が7,204万7,000円、伊部の総合運動公園が49万8,000円、三石の運動公園が149万5,000円、吉永が1,066万3,000円、日生の運動公園が1,494万7,000円、日生のプールが1,577万3,000円、あとは一般的な管理費としまして残りが550万円程度、これが残りの一般的な管理費といこと、伺っております。

○青山委員 関連なんです、以前に市のスポーツの振興というふうなことで市長にお伺いしたら、答弁の中で施設管理公社のほうでのいろんな企画も今後期待するといようなことの答弁があったんですが、特に久々井の公園でそういうふうな企画とかといふふうなことでやられるようなことといのはしっかりできてるのでしょうか。

○竹林社会教育課長 久々井の運動公園でいきますと、通常の温水プールの水泳教室といことは計画的に行われておるようなんですけど、公社さんも自主事業といところまではなかなか踏み込んで取り組めてないといふふうには聞いております。

○青山委員 これは市のほうが出してるわけなんですけど、指定管理のほうで独自に収益を上げるとかといふふうなことといのは可能なんのでしょうか。

○竹林社会教育課長 それは公社さんでそういった事業に取り組んでいただければ収益の面でも貢献できると思いますので、ぜひ進めてはいただきたいというふうには考えております。

○青山委員 多額の市からのお金、委託料だけで何とか施設の管理をするだけというんでなくて、もう少し幅広くイベント等を行って収益を上げるようなことへ向けても指導なりしていただけたらと思うんですけど、その辺はどうですか。

○竹林社会教育課長 公社さんとの話の中でもそういったお話も今後積極的に出していきたいと思えます。

○掛谷委員 関連なんですけど、参考資料の13ページに施設利用状況というのが一覧で載っております。学校体育は置いといて、三石総合運動公園の多目的広場というのが合計で6,686と、日生は多目的9,415と3,000名ぐらいの差があるんですが、気になるところは、日生は多目的広場が多いというのはどういうふうなものに使われているのかというのがわかれば教えてほしいんですが。

○竹林社会教育課長 日生の多目的広場につきましては、少年野球、サッカー等で活用されてると思われま。一方、備前につきましてはこの多目的広場といいますのが野球場になります。野球に特化した利用かなというふうに使われま。

○掛谷委員 日生は多目的広場の日生はグラウンドゴルフ使ってはないということですか。

○橋本委員長 それは違うで、これは。

○掛谷委員 それで、もう一つだけお聞きしたいのは、温水プールじゃなくて温浴施設でどうのこのじゃないんですが、備前市総合運動公園と日生の浜山の運動公園というのは駐車場というのは保有台数どれぐらい台数が置けるもんかというのがわかりますですか。直接関係はないんですけど、駐車場の台数は気になる場所なんで、わかれば教えていただきたいんですけど。

○竹林社会教育課長 久々井のほうは552台、日生の運動公園につきましては600台程度ということになっております。

○掛谷委員 これは正式な線を引いたというか、駐車場という指定をされたところがこういう数字だと思うんですけど、実質的に置ける台数というのは、これはまたすぐわからんと思えますけど、スポーツフェスティバルで見たらわかりますけど、相当広い道路のところはずうっと置いたりして、それは日生も一緒なんですけども、運動公園の中のそういう本当に置ける台数というのは実質違うと思うんです。すぐは出ないと思うんですが、そこらあたりも参考にまた今後教えていただければと思えます。

例えば浜山運動公園のこちらは県道があり、県の土地なんかがございます。そういうところは実質的に浜山運動公園の中ではないと思う。ところが、久々井の運動公園というのは道路に相当おけるんですよ。だから、そういう意味で浜山よりも本来なら実質的には久々井のほうがたくさん置けるんじゃないかと想像するんですよ。そのあたり、調査をされておりますか。

○橋本委員長 公園内の道路と。

○竹林社会教育課長 先ほど、日生の駐車場600台と言いましたが、こちらにつきましてはスポーツ広場等を駐車場に利用した場合が含まれておるようでして、実質的な駐車場としてあるのは190台程度ということで、済いません。

○掛谷委員 だから、すぐ答えはいいですけども、変な話駐車違反でも何でもないと思うんですよ、運動公園内は。だから、実質的に置ける台数というのは幾らなんかというのを今後調査して、またいいときに教えてください。それは要望しておきます。

○守井委員 196ページの学校給食の関係なんですけど、昨年に比べて大分全体の予算も少なくて済んでるというような形になっているんですが、2億2,000万円が補正で減つとるから1億7,000万円か。どちらにしても若干減つとるというようなことなんですけれども、日々の食事ですから修繕もやらなくちゃいけないだろうし、人も入れていかななくちゃいけないし、食べ物ですからよく気をつけなければならぬというようなことなんですけど、30年度の実態としてそれぞれの5調理場の対象人員、運営人員と、それから単価がどのくらいで上がったか、わかれば教えていただきたい。

各調理場によって1食当たりの単価が変わってきているんじゃないかと思うんですけど。

○大岩教育振興課長 1食当たりの単価は、30年度の決算ベースで投資的経費を除いたもので算出しております。西鶴山共同調理場が286円、伊里共同調理場が308円、日生共同調理場が325円、吉永共同調理場が352円、片上小学校が661円となっております。

○守井委員 それぞれ対象人員は何人で運営しておりますでしょうか。

○大岩教育振興課長 生徒数ですが、西鶴山共同調理場が423人、伊里共同調理場が733人、日生共同調理場が455人、吉永共同調理場が301人、片上小学校が129人となっております。

○守井委員 各調理場によって単価が多少違ってくると、そのあたりの違いというのはどういふところによって出てくるのでしょうか。調理によってその共同調理場、調理場の運営の仕方によっても変わってくるのかなあというふうに思うんですけども、いかがなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 大きな違いは人件費になってまいります。片上小学校につきましては、市費の栄養士、あとの共同調理場は県費の栄養士ということで、それが片上調理場が倍ぐらい単価がかかる理由になっております。

○守井委員 栄養士の単価を除けばそう変わらないというような解釈でよろしいんですか。

○大岩教育振興課長 大きなものは人件費で、栄養士でございます。

○中西委員 193ページ、文化施設費の委託料、この中で害虫駆除委託料が前年度は16万5,000円、今回は6万3,720円となっております。この理由についてお尋ねをさせていただきたい。

○横山文化振興課長 こちらにつきましては、加子浦の歴史文化館の6万3,720円のみになっておりまして、歴史民俗資料館については29年度まで消毒をしておりましたけども、30年

度は予算計上しておりませんでした。

○中西委員 備前の歴史民俗資料館ですよね。ここはことし夏にもお伺いをしたんですけども、クーラーもきかない部屋があって大変暑い思いをしましたけども、害虫駆除をしなくてもいいんでしょうか。古い建物だけに必要なんじゃないでしょうか。

○横山文化振興課長 歴史民俗資料館につきましては最小限の経費で運営するよというふうな指示もありまして、今回こういうふうになっております。

○中西委員 資料館におさめられているものの管理ということでは、そういう害虫の駆除というのは必要ではないかというふうに素人目には思うんですが、もうこの片上歴史民俗資料館を畳む、閉鎖をするということが前提でそういうような最低限の駆除ということになってるんでしょうか。

○横山文化振興課長 急に運営をやめるとかということではなくて、必要最小限でやれということなので、そういうふうになっております。

○中西委員 よくわからないんですけども、私は続いて次に移りたいと思います。

195ページの青少年対策費、負担金補助及び交付金のところで、FOS少年団補助金というのがあります。この27万5,000円というのは余り変化のない金額であります。人員というのはこの間どう推移しているんでしょうか。

○竹林社会教育課長 過去のはっきりした人数の推移というのは把握しておりませんが、恐らく減少傾向ではあるかとは思いますが、30年度の登録者数でいいますと、日生が団員の方が14名、指導者の方が20人、吉永地区が団員の方が23名、指導者の方が13名ということで把握しております。

○中西委員 ほかのところは生徒の数、子供の数、組織人員が少なくなっていくことについて補助金が減ってきますけども、ここはそういうことはないものなんですか。

○竹林社会教育課長 手元にある資料でいいますと、合併時点では38万円程度が補助金としては実績としてあったということですので、そこからいいますと10万円程度減額にはなっているということでございます。

○中西委員 これは計算式はどうなるんでしょうか。

○竹林社会教育課長 これは特に計算式ということではありませんで、今現在でいいますと日生、吉永地区、2地区に対して1地区13万7,500円ずつが交付されているという状況でございます。

○中西委員 さして基準がないということがよくわかりました。

193ページの文化施設費の委託料、施設清掃委託料、これは29年度が91万2,000円、今回は決算では84万2,400円。ところによってこういう金額が浮き沈みがあると。一括でやると安くなるというところもあったり、単価が見直しがされたとかというのがあるんですが、どうしてこういう委託料というのがそれぞれの施設によって入札で行われたにしてもばらば

らになっているのか、その理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○横山文化振興課長 文化施設費の清掃委託につきましては、備前焼ミュージアムと歴史民俗資料館と加子浦を委託しておりましたけども、今回のものについては備前焼ミュージアムのみものになっております。

○中西委員 部長、さっき加子浦のみが害虫駆除上がり、備前の歴史民俗資料館害虫駆除上がらない。施設清掃委託料は備前焼ミュージアムのみだと。清掃委託料はそれぞれのものによって値が下がったり、上がったり、でこぼこしていると。どうしてそういうような減少になってくるのでしょうか。一回これは精査をしてみる必要があるんじゃないでしょうか。

○田原教育部長 契約管財課で一括で入札等をしている分については、入札の関係で人件費の高騰であるとか、そういったところで上昇しているということがあると思います。また、害虫駆除等については精査をして、必要な場所につけて、これは毎年でなくてもいいだろうというような形、あるいは館の中で虫干しをしたり、そういったところに対応しているところもあるように聞いております。そういったところに対応しているのではないかと考えておりますが、詳細を聞いて今後の課題にさせていただきたいと思います。

○中西委員 害虫駆除と清掃委託料については一回そういうふうをお願いをしたいと思います。

ただ、清掃委託料は管財課のほうで入札なんだとってしまえばそうなんですけど、この教育委員会の中で見ただけでも20万円もふえたところもあれば、これは人件費がふえたんだと。しかし、ここなんかは7万円減っているわけです。ほかのところも減っていると。そういうでこぼこがどうして起こるのかというのがわからない。

たしか教育委員会の遊具の点検の委託料というのは一律どどと下がったと。これは入札で業者が変わったということで去年出ていましたけども、人件費が上がるのであればどこのところも人件費は上がってくるわけなんですけど、そうはなっていないというのがこの委託料なんです。

○田原教育部長 職員で対応をしているというような部分もあって、そういう額になっていると思います。

○中西委員 細かくは言いませんけども、来年度の当初予算に当たっては、十分精査をしていただくようお願いをしたいと思います。

○尾川委員 関連で確認なんですけど、まず委託料の関係で、害虫駆除委託料の問題で、この害虫駆除の目的は何なんですか。するところはする、せんところはせんという今説明があったと思うたんじゃ。どういう基準で、要するにせんでもええという理由はどんなんで。

というのが、いろいろ貴重な資料、わしゃ蚊やハエを、ゴキブリも含めとんか知らんけど、資料がかなり大事なもんがあると思う。それを単なる担当者に任せたほうがええんか、プロがしたほうがええか、どっちが保存状態がいいというのはわからんよ。その辺を説明してください。

○横山文化振興課長 こういった施設については、薫蒸等をして今言われたゴキブリ等も含めてになるとは思いますけども、資料に影響がないようにというようなことをしていくべきかなあとい

うふうには思いますが、そういうことで内部で対応するというようなことも含めてこういうふうなことになったんだと思います。

○尾川委員 だったんだと思いますじゃねえ。そんなええかげんなことを言うたらおえるもんか。それだけ大事な資料が入つとると思うんじゃ。人間のための蚊や駆除をするんなら、ハエやこすると違うんじゃと思うんよ。それをあんた何か人が決めるような話しするけえ、あんたが決めるんじゃねえんかなあ。そんな答弁ありゃへんよ、一番よう知つとる人が。そやから、プロにやってもらわんでも、全部素人でやりゃええが。それをはっきりしてください。

○田原教育部長 確かに、貴重な資料等を守っていかなければならないというのは備前市の文化財行政を進めていく上でも最も大事なことだと思っております。財政当局にもそのことを訴えて、ぜひそういった予算については確保していくようにしていきたいと考えております。

○尾川委員 同じ話になるけど、資料をどこまで保存していくかということは、大事なもんはきちっと残していかんやいけんと思う。それだけの姿勢、スタンスは必要だと思うんじゃ。ただ、目先の費用節減で、こっちだけしとけ、あっちだけしとけというて、そんなええかげんなもんじゃねえと思う。それを担当者が認識して対応していく、金かけるばあじゃねえと思うよ。じゃから、ちゃんと説得して人のせえみたいに言われな。

○横山文化振興課長 御意見ごもつともだと思います。予算確保に努めてまいります。

○西上委員 183ページ、1節報酬の中で社会教育指導員報酬が260万2,600円、昨年度は141万2,200円ですが、この上がった理由やら詳細、また成果など教えてください。

○竹林社会教育課長 30年度の社会教育指導員報酬につきましては、2名分が上がっております。29年度までは青少年対策費のほうで1人賄っております、そちらのほうと措置上の入れかえでこういう増減ということになっております。

○西上委員 社会教育自体の成果など、成果を教えてください。

○竹林社会教育課長 社会教育指導員さんにつきましては、社会教育課内で主に人権対策等の関係の部門を中心的に担っていただいております。

○掛谷委員 194、195ページで、13節の委託料の中でマラソン大会の運営委託料400万円、これが平成30年も同じ額で計上して、本年も済みました。平成30年の参加人数も含め、どういった成果が上がったのか、それでことしもやっているということで、課題というのはないのでしょうか。よかったところと、例えばマラソンのコースがアップダウンが非常に大きいというようなこともあって、短い距離と長い距離がありますけども、そのあたりのところを踏まえて本年やられたと思いますけど、この辺の説明をお願いしたいんですけども。

○竹林社会教育課長 30年度のマラソン大会につきましては、エントリー数は1,060名ございました。当日の参加者数につきましては967名ということで、参加された方の声といたしましては4年ぶりの開催だったんですけども、天候も恵まれたということでかなり満足をされた。頭島、鹿久居島含めてたくさんの住民の方に協力もいただいて、サービスコーナー等も評判

がよかったということで伺っております。

また、今年度につきましては、さらに周知のほうをさせていただきながら、2年目ということで一応目標は1,500名目標にということで募集を今後上げていきたいというふうに考えております。

○掛谷委員 私も全部走ってないんで、わからんのやけど、アップダウンの高低差、特に坂のところの辺のところはマラソンを走る人ですからそんなこと言ったらできませんけども、そういうのは声としてはアンケート調査みたいなんで、課題は何ぼかあったんじゃないかと思うんですけど。

○竹林社会教育課長 マラソンコースとしては、高低差がかなりあるということで、そういうタイムを求めてこられる方というのはかなりその辺は気になったんじゃないかと思うんですけども、多くの方が景色を眺めながら楽しんで走っていただくということを目的に来られているというような声で、かなり参加者からはそういった声で評判はよかったというふうには伺っております。

○中西委員 197ページ、学校給食費、別紙7というのがあるわけですが、この中で給食運搬車運転員賃金は市民協働課の担当になるということですが、この中身については厚生の方の決算のときにお伺いをするんですが、これは教育委員会さんのほうで協働課とまとめてやったほうがいいということでどうぞというんじゃないかと、市民協働課のほうからうちのほうで引き取らせていただきますということでこれは引き取ったものなんでしょうか。

○大岩教育振興課長 スクールバスと同じく、運転員と車両、車検一括管理ということで公共交通課のほうでしております。今、その分を市民協働課ということで引き継いで一括管理していただいておりますので、そういった協議のほうはしておりません。

○中西委員 学校給食費の委託料のところは電気保安管理委託料、これは昨年度は84万7,000円、今回は80万3,418円ということで、ここは4万4,000円減額になってるんですけども、これも理由は何でしょうか。人件費が下がったのか。

○大岩教育振興課長 一括入札により入札でこのようになっております。前年度が共同調理場の4施設、単価が19万6,250円だったものが、30年度は18万5,976円ということで、単価の減でございます。

○中西委員 その4つの施設というのは、片上の調理場も含めて4つで、単価も一緒なんでしょうか。

○大岩教育振興課長 4つは共同調理場でございます。片上の給食場につきましては、片上小学校の中に入れておりますので、ここでは入ってきておりません。自校調理なので、小学校の分には含まれております。

○中西委員 じゃあ、人件費もその小学校の中のほうに入るわけですか。栄養士さんの賃金ですけど。

○大岩教育振興課長 人件費は給食のほうに入っております。

○橋本委員長 ほかにございますか。

○掛谷委員 197ページ、19節負担金補助及び交付金、スポーツ少年団の活動補助金が194万円ほど出ております。年々スポ少が廃部されている思っていますが、平成30年度のスポ少の団体数、地区ごとでわかれば人数も含めてどういうふうな内訳になっているのか教えてほしいし、令和については減っているのか、近年の動向あたりを教えてください。

○竹林社会教育課長 30年度は19団体になっております。こちらで指導者の方が123名、それから団員の方で221名、トータル344名となっております。ことしの正確な数字というのは手元にはございませんけど、恐らく団員数については若干減少が見られるかもしれませんが、ほぼ同様な状況かと思えます。

○掛谷委員 令和元年もスポ少が余り変わらないのはいいことなんですけども、これはスポ少の人数で補助金が変わるんだと思いますけども、一番多いスポ少の団体と一番少ない団体というのはどういう団体で、どれぐらいの人数なのか、差をお聞きしたいんですけども。

○竹林社会教育課長 団体への活動費につきましては、1団体当たり5万円となっております。

○掛谷委員 じゃあ人数が仮に10人でも、40人でも変わりが無いということは、何か一律というのはもう考えなきゃいけないと思うんですけど、そのあたりの考え直しがあるのか、どういうふうな考えでそうなるのか、教えていただきたい。

○竹林社会教育課長 今のところはそういった声は聞かれませんが、加盟団体さんの声も聞きながら、皆さんの同意が得られるような話であれば何か変わったやり方も考えたいと思います。

○掛谷委員 一番少ないのは何名なんですか。

○竹林社会教育課長 登録団員数で少ないところでいきますと、3名というところが団体としてはございます。多いところで25名というところがございます。

○掛谷委員 だから、余りにも差があって、それで一律の5万円というのは、一つの考え方なんですけど、1団体に差し上げるのに、余りにも3名と25名とでは補助するのをもう考えを変えていく必要もあるんじゃないかなあと。議論をすることが必要ではなかろうかと。変えるのは非常に難しい、もう何事も変えるのは難しい。だけど、そういう声は上がらんというのは上がりにくいということがあります。ということで、議論をしていただいて、公平公正を保っていくほうが大事じゃないかなあとと思います。部長さん、そうせえというんじゃないですよ。難しい問題ですけど、余りにも差があるんじゃないかなあと思っていますけど、どう思いますか。

○田原教育部長 市としては、スポーツ少年団に交付しております。スポーツ少年団の組織において配分については決定しているという状況でございます。確かに、市のほうがスポーツ少年団のかかわりを持ってやっておりますが、そのあたりはスポーツ少年団の自主的な運営でございますので、こういった御意見があったといったことはお伝えはしたいと思えます。

○掛谷委員 こうしろというんじゃなくて、議論をされたらどうかということでお伝え願いたい

と。例えば公平公正というふうにはなかなか言いにくいですよ。5名でもほな下げるといのは難しいんですよ。だけど、まず議論はしていただければと。

○**田原教育部長** こういった5万円といった金額の設定につきましても、その当てもそういった意見は議論をしております。ただ、団の決定事項でありますので、それを尊重しているというような状況でございます。こういった期間もたっておりますので、委員の方からそういった意見もあったといったことはお伝えはしたいと思えます。

○**田口副委員長** 今の件に関してですけど、最低限の費用ということで、登録料とか、そういうものに係るお金を補填しているだけで、組織で最低限要る費用と理解してもらえればいかなと思えます。

○**青山委員** 195ページの保健体育費、保健体育総務費、1節の報酬のスポーツ推進委員の報酬ということなんですけど、スポーツ推進委員は今現在何名で、どういったようなことをされているか、教えてください。

○**竹林社会教育課長** スポーツ推進員さんにつきましては、現在各地区から出てきていただいて、22名活動いただいております。中心的なのが、まずきのうありましたスポーツフェスティバル、こういったところでは体育館においてニュースポーツ体験ということでいろいろ事前に準備をいただきながら協力のほうをいただいております。

○**青山委員** その下にスポーツ推進審議会委員報酬というのがあるんですが、こちらのほうは何名、どういったような方が選ばれて、どういう内容のことをされているのか。

○**竹林社会教育課長** 推進審議会さんにつきましては、8名おられます。主にスポーツ関係についての指導者の養成とか、実施内容、スポーツ施策の状況等について会合において意見をいただくということで、各種団体さんの代表者さん等から構成されております。

○**青山委員** 各種団体というのは、どういうふうな団体になりますか。

○**竹林社会教育課長** 主には体育協会さん、スポーツ少年団の本部、それから小・中学校の代表、先生方、それから先ほどありましたスポーツ推進員さん等の代表者等から成っております。

○**青山委員** どういうふうな内容のことを話し合われたんですか。

○**竹林社会教育課長** こちらはスポーツ関係全般についてということですので、条例上でいきますと施設の整備とかもあわせて指導者の育成、それからスポーツ事業の実施などの内容について議論をいただいております。

○**青山委員** これは研修会の開催とか、そういったようなことも話し合われるんですか。

○**竹林社会教育課長** そこまでは中身にあつたかどうか把握はできておりません。

○**青山委員** 最後にしますけど、スポーツ基本計画という10年の計画は常に評価をして、見直しの意見なんかというのは出てくるんでしょうか。

○**竹林社会教育課長** 先般、一般質問等でもございましたけど、見直しの時期が近いということで、この見直しの内容につきましてもこちらの推進審議会さんのほうにいろいろ調整を図りなが

らやっていく予定にしております。

○尾川委員 前へ戻るんですけど、193ページの文化施設費の中で備品購入費、施設整備備品が28万800円、施設備品が9万6,768円、どうもよう似たような字が書かれとんじゃけど、この違いというのは何でしょうか。同じにすりゃあええような気がすんじゃけど、中身が違うから区分しとんじゃと思うんですけど、説明してください。

○横山文化振興課長 まず施設整備備品ですけども、こちらについては施設についている空調機になります。今回は空調機を2台です。施設備品につきましては、写真撮影をするためのランプ、スタンド一式を購入したのになります。そういった施設に設置しているものと、備品として利用しているものとの違いになります。

○中西委員 195ページのところで、もう一度負担金補助及び交付金、FOS少年団補助金、先ほどのお話ですと吉永と日生に案分して出しているというようなお話でしたけども、この補助金の繰り出しの要綱とか、あるいはそれに類するようなものはあるんでしょうか。

○竹林社会教育課長 手元にはございませんので、確認させていただき、後刻資料提出いたします。

○掛谷委員 197ページ、18節備品購入費、ここでは体育施設の備品が1,235万6,280円、結構な額なんで、どういう体育施設の備品を購入されたのかお聞きしたいと思います。

○竹林社会教育課長 内訳ですけども、陸上競技場の投てき用の囲いが754万7,040円、それから棒高跳び用のマットが286万9,560円、投てき用の距離標識が129万6,000円となっております。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の項目に移ります。

200ページから203ページで諸支出金のうちの積立金に関して文教関係のかかわるもので質疑を希望される方はおられますか。

○中西委員 201ページの積立金、米百俵基金積立金、全体の中では支出のところ項目がありませんでしたので、ここでお伺いをさせていただきたいと思います。

この米百俵基金積立金、この年度は何か有効に活用されたというのはあるんでしょうか。

○大岩教育振興課長 米百俵基金の30年度の使用した事業でございますけども、私どもの教育振興課のほうで片上高校魅力化検討委員会ということでパンフレット等をつくりました。それが約24万1,000円、それから学校教育課の特色ある学校ということで331万円、それから社会教育課のほうでふるさと創生カレッジの事業費に約200万円、それから秘書広報課の楷の木賞のほうに約10万5,000円、市民協働課の協働事業ということで35万円、それから産業観光課の創業奨励金ということで50万円、計651万1,582円を事業費のほうに充当しております。

この効果につきましては、2億5,000万円最初積み立てたときに6事業のほうに最初は重点的に配分して事業をしていくということで、本年度は1年目ということでこの事業に主に充当してまいりました。米百俵基金の創始目的である人を育てる事業というんですか、そういったところに充てていくということで、当初の6事業にこう充ててまいりました。

今後、またこの事業の内容を検討いたしまして、次年度以降も使ってまいりますけども、最初の導入段階で附帯決議もございまして、基金を財源とする事業は必要最小限度、費用対効果をよく考えて市民に理解を得られるよう使用するように言われておりますので、そういったことも考慮しながら今後事業展開していきたいと考えております。

○中西委員 この事業につきましては、繰り出しの要綱あるいは規則はあるのでしょうか。

○大岩教育振興課長 要綱はございません。基金条例があるということです。

○中西委員 それと、今年度はこういう形で使われたわけですけども、例えば31年あるいは32年、どういうもので使うのかというのは前もって設定されてこの基金というのは使われるんですか。それとも、こういう事業でお願いをしたいということであれば、そういうものがその年度でも使われるものなんですか。

○大岩教育振興課長 住民の主体的な学びへの支援を重視するということで、人づくりのための基金の創設でございましたので、そういった事業を各課が今後上げてくるんですけど、その中でその米百俵基金を有効に活用するというのは、そこは財政サイドとも相談になってくるんですけども、そういったことを考えながら運用していくということになるかと思えます。

○橋本委員長 諸支出金でほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでございます。

それでは、歳入歳出を通じて文教関係、質疑漏れはございませんか。

○星野委員 教育のICT化についてなんですが、先ほど議論がありましたが、ICT機器の更新、プログラミング教育に向けた環境整備など、今後も多額な費用がかかってくるようになりますが、地方財政措置、教育情報化関連部分として普通交付税でどれだけ算入されているかというのは把握されているのでしょうか。

○大岩教育振興課長 ICT機器の導入ということで、国のほうで基準財政需要額のほうに算入ということで、交付税の単価の中にはICTが何ぼというのは含まれているんですけど、備前市にそれが何ぼ入ってきとるかというのは算定のほうではいたしておりません。

○星野委員 文科省で教育のICT化に向けた環境整備5か年計画2018から2022年度、これを策定して2018年度から22年度まで単年度で1,805億円の地方財政措置を講じていますよね。こういうお金がどんだけ入っているかというのは全然把握してないんですか。

○大岩教育振興課長 実際の市の歳入でどれくらい入ってきているかというのは計算しておりません。

○星野委員 財政課との交渉というのはどうされているんですか。

○大岩教育振興課長 交渉といいますと予算の中でこういった事業をとということで要求しますけれども、その中で交付税がこれだけ入ってきますんでというような話は交渉過程では入ってきません。

○星野委員 幾らぐらい入ってくる見込みがあるからこういう予算をつけてくださいっていうふうに交渉するんじゃないんですか。じゃないと、今後ICT機器、タブレットの更新もありますし、プログラミング教育の環境整備もありますよね。かなり金額かかりますけど、そういう交渉ってうまくできるんですか。

○大岩教育振興課長 文科省の算定というのが3人に1人だったと思うんです。3人に1人であるとか、ネット環境の充実ということで高速通信のほうをつくる場合に需要額の中に算定するというような考え方だったと思うんですけど、備前市に、その事業が備前市に当てはまるかといえれば、その文科省の交付税算入の事業的なものは今の段階では備前市には当てはまっていないのかなとは考えておりますので、算定しないということでございます。

○星野委員 交付税算入額のうち教育情報関連経費、備前市が交付税が約56億8,000万円ですか。そのうち約7,600万円ぐらい算入されているという情報をつかんでいるんですよ。しっかりそういう情報を集めて財政課とこういう機器、子供たちのためにこういう機器を入れてほしいっていうのをしっかり交渉していただきたいんですが、部長はどうお考えですか。

○田原教育部長 ICT機器の整備に関しては、かなりの多額の費用、もうふるさと納税も昔みたいに入らないといったところで、財源の確保というのは最も大事なことで考えております。そういったところで、財源をこちらのほうでも補助金であるとか、有効な資金、そういったものを研究、調査して、財政当局との交渉にも臨んでいきたいと考えております。

○星野委員 よろしくをお願いします。

○中西委員 171ページ、教育総務費の事務局費の中で委託料、前年度までは電気保安全管理委託料というのがあったんですが、30年の当初の予算でも出てない。つまり30年度は必要がなかったということが当初から言われていたわけなんですけども、どうしてなのでしょう。

○大岩教育振興課長 この電気保安全管理委託料なんですけども、神根小学校の高圧電流の分でございます。廃校になりましたので、1万200円が6カ月分は前年度の計上でございます。ただ、30年度は貸し付けしておりますので、うちのほうでは払っておりません。

○中西委員 もう一つだけ。害虫駆除の委託料が当初の予算では13万円組まれていました。決算では出てこないんですけども、どうして決算に出てこないのでしょうか。

○大岩教育振興課長 主にスズメバチの駆除を委託できたかと考えていたんですけど、直営でスズメバチ駆除しておりますので、使っておりません。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で議案第97号平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定についてのうち教育部関係の全ての審査を終了します。

それでは、これもちまして予算決算審査委員会を閉会します。

今回は29日火曜日、午前9時30分から市民生活部、保健福祉部ほか関係の審査を行いますので、よろしくお願いいたします。

皆さん、御苦労さまでした。

午後3時56分 閉会